

2021 年度 福祉保育学科

授 業 概 要

学校法人 昌賢学園
群馬社会福祉専門学校

福祉保育学科 開講科目

区分		科 目	単 位	種 類	年 次
基礎科目	外国語以外	哲学	2	講義	1年
		日本国憲法	2	講義	2年
		キャリアデザイン	1	演習	1年
		情報リテラシー	2	演習	2年
	外国語	英語リテラシー	2	演習	2年
	体育	健康教育	1	講義	2年
		体育実技	1	実技	1年
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2	講義	1年	
	教育原理	2	講義	1年	
	子ども家庭福祉	2	講義	1年	
	社会福祉	2	講義	2年	
	子ども家庭支援論	2	講義	2年	
	社会的養護 I	2	講義	1年	
	保育者論	2	講義	1年	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	2	講義	1年	
	子ども家庭支援の心理学	2	講義	1年	
	子どもの理解と援助	1	演習	2年	
	子どもの保健	2	講義	1年	
	子どもの食と栄養	2	演習	2年	
	障害者福祉論 I	2	講義	1年	
	障害者福祉論 II	2	講義	2年	
保育の内容・方法の理解に関する科目	保育の計画と評価	2	講義	2年	
	保育内容総論	1	演習	1年	
	健康	1	演習	1年	
	人間関係	1	演習	1年	
	環境	1	演習	1年	
	言葉	1	演習	1年	

	表現	1	演習	1年
	音楽Ⅰ	4	演習	1年
	音楽Ⅱ	2	演習	2年
	図画工作Ⅰ	1	演習	1年
	幼児体育	1	演習	2年
	乳児保育Ⅰ	2	講義	1年
	乳児保育Ⅱ	1	演習	2年
	子どもの健康と安全	1	演習	2年
	障害児保育	2	演習	1年
	社会的養護Ⅱ	1	演習	2年
	子育て支援	1	演習	2年
	保育技術Ⅰ	2	演習	1年
	保育技術Ⅱ	2	演習	2年
保育実習	保育実習Ⅰ	4	実習	1年
	保育実習指導Ⅰ	2	演習	1年
	保育実習Ⅱ	2	実習	2年
	保育実習Ⅲ	2	実習	2年
	保育実習指導Ⅱ	2	演習	2年
	保育実習指導Ⅲ	2	演習	2年
総合演習	保育実践演習	2	演習	2年
その他	障害者スポーツ	1	演習	2年
	障害者支援	1	演習	2年

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 哲 学		授業の種類 講 義		授業担当者 鈴木 利定	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)					
<p>[授業の目的・到達目標]</p> <p>「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>孔子は人間いかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代におけるあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を徳ことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する経口すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について 2. 政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。 3. 教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について 4. 大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章)明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章) 5. 至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章)心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章) 6. 家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序) 7. 道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章) 8. 顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章) 9. 国に道があると無きとに閑せず節操を持つべきを子略に示す。(右第十、十一章) 10. 孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章) 11. よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章) 12. 孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 13. 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子・荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 14. 老荘思想においては人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 15. 老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>予習・復習を行う。出席評価を重視する。</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 「咸有一徳」(中央法規)			試験(70%) 課題取り組み(10%) 内容・方法・態度(20%)		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 日本国憲法		授業の種類 講義		授業担当者 森田 隆夫	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・前期	必修・選択 必修		
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日本国憲法は、日本の最高法規である。それは、この憲法が人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、児童福祉法、介護保険法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎としている。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としてはもとより、社会福祉の専門家としての基礎を作る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>まずは、基本的な条文に当たりその理解をしてもらう。次に、判例をできる限り示し、憲法につき具体的に考える機会を持つ。適宜、関連する法律の紹介も行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①六法で条文を調べることができる。 ②憲法につき重要な概念、制度等を説明することができる。 ③憲法解釈という思考方法をとることができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目オリエンテーション、人権①(人権の概念、歴史について説明する。)[講義] 2. 人権②(基本原理、私人間効力について説明する。)[講義] 3. 人権③(包括的基本権、法の下での平等について説明する。)[講義] 4. 人権④(思想良心の自由、信教の自由等について説明する。)[講義] 5. 人権⑤(表現の自由等について説明する。)[講義] 6. 人権⑥(経済的自由について説明する。)[講義] 7. 人権⑦(人身の自由について説明する。)[講義] 8. 人権⑧(生存権、教育を受ける権利について説明する。)[講義] 9. 人権⑨(労働権、参政権、国務請求権、国民の義務について説明する。)[講義] 10. 統治①(統治機構について説明する。)[講義] 11. 統治②(国会について説明する。)[講義] 12. 統治③(内閣について説明する。)[講義] 13. 統治④(裁判所について説明する。)[講義] 14. 統治⑤(財政、地方自治について説明する。)[講義] 15. まとめと解説[講義] 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>教科書で予習・復習すること、憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>【テキスト】</p> <p>・西原博史・斎藤一久 編著 教育課程のための憲法入門 弘文堂</p> <p>【参考文献】</p> <p>・小六法(例:「(保育)福祉小六法」みらい、「ポケット六法」有斐閣)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>小テスト(40%)、定期試験(60%)を総合して評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) キャリアデザイン		授業の種類 演習		授業担当者 鈴木 国泰	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 30 時間(1 単位)	配当学年・時期 1 年前期		必修・選択 必修	
[実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)] 現役学生の就職支援から、中高年職業訓練生の就職支援を平成 23 年度から担当してきました。突然就職希望先を決めてしまい、その結果突然早期離職してしまうケースや、なかなか就職希望先が決まらないケースも見てきました。それには、それなりの理由があります。つまり、就職には、いきあたりばったりではなく、ある程度のおおまかなデザインが必要なのです。デザインとは何か、キャリアとは何かを見直しながら、自分自身の進路への道筋を体得していきます。					
[授業の目的・ねらい] 「キャリアデザイン」の目的は、「キャリア」および「デザイン」を用語として理解を深めることで、将来的に自分自身の人生設計を自律的に可能にしていくことです。					
[授業全体の内容の概要] キャリアデザインをしていくためには、「やりたいこと」、「やれること」、「やるべきこと」の三要素を明確にしていくことが極めて重要です。そのためにも、個人ワーク・グループワーク等の手段を通じて、表現力・コミュニケーション能力を養いながら、自己理解を明確にしていきます。					
[授業終了時の達成課題(到達目標)] これからの学生生活では、様々なボランティア(インターンシップ)・実習を通じて自らのキャリアの判断材料を作っていきます。何となく参加したボランティアが人生の大きな転換となることもあります。そのタイミングを逃さず捉えること、受け入れること、「これでいいのか?」と思うことなど、いくつもの劇的な場面に遭遇することでしょう。そのときに思った気持ちを大切に次のステップ(キャリア)に活かすことができれば、この授業の目標は到達されています。そして時には、意思決定のバリアも伴いますので、あらかじめ把握しておきましょう。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアって何?・パーティーゲーム「大運動会」でパーソナリティタイプを知ろう! キャリアの三要素 2. 今までの人生で影響を与えてきたこと、乗り越えてきたこと 3. メタ認知・ネガポジマップ 4. マズローの欲求段階説・ローの理論(何のために働く?・職業選択と親の養育態度) 5. エゴグラム 6. キャリアの虹・スーパーのアーチモデル・カードソート(自分の大切なもの、職業観は何?) 7. ジョハリの4つの窓 8. エリクソンのアイデンティティ発達理論・ギンズバーグの発達理論・スーパーのライフ・ステージ論 9. レビンソンの発達段階とトランジション・ブリッジスのトランジション 3 段階理論 10. シャインのキャリア・サイクルモデルとキャリアアンカー(私の軸ってこれだ!) 11. バンデューラのモデリング・自己効力 12. 卒業後の自分(5年~10年後の自分ではなく2~3年後を考えよう)・就活の流れ 13. 意思決定理論(クランボルツ「計画された偶発性」、ジェラットの積極的不確実性、) 14. 意思決定のバリア(カーニーの意思決定スタイル、ディンクリッジの意思決定スタイル) 15. 振り返り、まとめ 					
[履修に当たっての留意点] 過去を振り返り、自分自身を見つめ直すことをグループワーク等を通じて、将来を考えていきます。他の人へ言いたくないことなどは、言わずに自分の伝えられる範囲内のことで、グループワークを実践しましょう。遠隔授業や感染拡大防止対策上、若干内容を変更して行うこともあります。					
[使用テキスト・参考文献] すべてこちらで用意します。			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・課題・定期試験で総合的に評価します。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 情報リテラシー		授業の種類 演 習		授業担当者 市 川 貞 男
授業の回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・通年	必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>教員としての実務経験、教育委員会指導主事や研修会講師としての教育・保育現場への実務指導経験、大学教育での情報系スキルの教育実践経験を活用して、現場の実情に即した実践的な知識やスキルの定着が図れるように各回の授業を展開する。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>パソコンに慣れ親しみ、身近な道具として利用する方法を身に付け、保育や福祉の現場に活かす能力を養う。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>コンピュータによる文書作成、表計算、プレゼン資料等の作成のための基本的な操作を、演習課題を通じて学び、Officeソフトの機能を体系的に理解する。</p>				
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マウスやキーボード操作に慣れ、基本的なOSやアプリケーションについて理解する。 2. ワードプロセッサのWordを使って、おたよりなどの文書を作ることができる。 3. 表計算ソフトのExcelを使って、表やグラフの作成とデータベース管理ができるようになる。 4. プレゼンテーションソフトPowerPointを使って、分かりやすく説得力あるスライドを作ることができる。 5. ビジネスメールのスタイルや注意点を理解し、目的に応じたメール文を作ることができる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>この授業は、概略説明→操作練習→課題演習で構成される。</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 授業概要の説明と、PCやICTによる教育の情報化や情報モラルについて概説する。 2. パソコンの基礎 Windowsシステムを概説し、基本的な操作を練習する。 3. 基本操作の習得 メモ帳を使ってキーボードでの入力操作を練習する。【Unit1】 4. Windows ファイルやフォルダーの仕組みについて説明し、操作と検索の練習をする。【Unit2】 5. 文字入力 キーボードを使って文字入力の練習をする。【Unit3】 6. マウス操作 マウスを使ってイラストの描画練習をする。【Unit3】 7. Word① 文書作成の構成要素や機能を概説する。【Unit4】 8. Word② 簡単なおたよりを作成する。【Unit4】 9. Word③ Officeソフトの共通ツールを使って、表の作成や編集をする。【Unit5】 10. Word④ Officeソフトの共通ツールを使って、画像の挿入と加工や編集をする。【Unit5】 				

11. Word⑤ イラストの入った案内カードを作る。【Unit6】
12. Word⑥ 表が入ったおたよりを作成する。【Unit6】
13. Word⑦ やや複雑なレイアウトのおたよりを作成する。【Unit6】
14. Excel① 表計算ソフトの機能や構成要素について概説する。
15. Excel② データ入力や編集操作をする。
16. Excel③ 計算式の入力、表の集計、シートの保存などの操作練習をする。
17. Excel④ 表を作成する。【Unit7】
18. Excel⑤ 計算式を使ってフォームを作成する。【Unit7】
19. Excel⑥ データベースを作成する。【Unit8】
20. Excel⑦ データベースの更新をする。【Unit8】
21. Excel⑧ データの検索と集計をする。【Unit8】
22. Excel⑨ 表データの様式を作成する。【Unit9】
23. Excel⑩ 表データの集計をする。【Unit9】
24. Excel⑪ 表データをグラフで表示する。【Unit9】
25. Excel⑫ 関数を使って管理簿を作成する。【Unit9】
26. PowerPoint① プレゼンテーションの流れ、PowerPointの機能や構成要素について概説する。
27. PowerPoint② スライドの作成や編集などの操作をする。
28. PowerPoint③ プレゼンファイルを作成する。【Unit10】
29. 保育の場でのEメールによるコミュニケーションについて考察して、メール文を作成する。【Unit11】
30. 総合演習課題の実施やまとめ。

〔履修に当たっての留意点〕

1. 教科書の該当箇所を読んで、予習しておく。
2. 授業中には、集中して演習課題に取り組み、スキルを向上させる。
3. 授業後の未達成の演習課題や、欠席時の演習課題はそのままにしないで、やり遂げて提出フォルダにファイルで提出しておく。

〔使用テキスト・参考文献〕

『保育者のためのパソコン講座』 Windows10
 阿部正平・阿部和子・二宮祐子
 萌文書林

〔単位認定の方法及び基準〕

(試験やレポートの評価基準など)
 各回授業(授業の参加状況・演習時課題等)50%と
 総合課題50%で成績評価を行う。

授業概要

授業のタイトル（教科名） 英語リテラシー	授業の種類 演習	授業担当者 グジェビック マレク	
授業の回数 30	時間数（単位数） 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・通年	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>幼稚園での実務経験はありませんが、大人だけでなく子供も対象として今まで英語を教えてきました。現在でも教えている生徒の中に日本人の小学校の児童や幼稚園の園児がいます。</p>			
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>外国人と日常の様々な状況で、意思を通わせる能力が必要となってきました。仕事、趣味、家族、友達に関して自分が質問をしたり、質問に答えること、さらに外国人に指示を与えたりその理由を説明したりしなくてはいけない状況が生じます。保育士は、そのことを生徒に教える責任があります。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>基本的な文法、たくさんの会話の練習、発音やイントネーションの練習、さらに英語を母国語とする国の中でいくつかの国の生活や文化についての情報も学びます。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>学生は基本的な日常生活の範囲内で英語の意思の疎通ができるようになり、さらにその英語での意思疎通の能力を他の人にも教えることができるようになります。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions（序論）（自己紹介、会話の練習、ロールプレイング、質問の練習） 2. Greetings（あいさつ）（会話の練習、発音の練習） 3. Meeting People（人々との会合）（話し合うこと、会話の練習、書く練習） 4. Countries and Nationalities（国と国籍）（話したり書いたりする練習、絵をかいてみる） 5. Interests and Hobbies（関心事と趣味）（会話の練習、書く練習） 6. Moving Around the Town（町の中を散歩する）（行き方を聞いたり教えたりする） 7. Doing Shopping（買い物をすること）（話し合いや会話の練習、買い物のリストを作る） 8. A Visit to the Zoo（動物園へ行ってみる）（現在進行形、ロールプレイング、書く練習） 9. Funny, Funnier, the Funniest（の比較級と最上級）（形容詞の変化、話し合ったり会話をする練習） 10. Telling the Time（時間を言う）（尋ねる練習、書く練習、会話の練習） 11. Time for Lunch（料理と食事について、会話の練習、自分の食べるものを決める） 12. You Can Do It!（能力について、自分や他の人について話すこと、会話） 13. How About a Swim With a Dolphin?（イルカと一緒に泳ぐのはどうですか？）（可能性について話す、ロールプレイング、会話） 14. Jobs and Professions（仕事と職業）（繰り返す活動、ロールプレイング、会話の練習） 15. More Interesting Than You Think（あなたが思うよりもっと面白い）（形容詞の変化、話し合い、書く練習） 16. My New Kitchen（私の新しいキッチン）（場所や家具の描写、モノローグ） 17. Hospitality（もてなし）（申し出をすること、会話の練習） 			

18. The Weather (天候) (天候の様子描写、絵を描く、会話)
19. Traveling to the Isle of Gold (金の小島へ旅行する) (田舎の場所、話し合い)
20. Going Abroad (外国へ行く) (見物、欲しいものを表現する、会話)
21. A Trip to Egypt (エジプトへの旅) (観光名所、会話の練習)
22. Let's Do It! (それをしよう!) (提案や招待をする、会話の練習)
23. Family Problems (家族の問題) (命令、ロールプレイング、)
24. Just a Week Ago (ちょうど一週間前) (過去の経験、会話の練習、書く練習)
25. An Accident (事故) (過去の不規則動詞、書く練習と読む練習)
26. Natural Disasters (自然災害) (特別な助動詞、話し合い、ロールプレイング)
27. When a Big One Strikes (特別な助動詞、会話、書く練習)
28. Have You Ever Tried One? (今までにやったことがありますか?) (現在完了形、ロールプレイング)
29. How Long? Since When? (どのくらい長く? いつからずっと?) (現在完了進行形、会話の練習)
30. General Review of Verbs and Auxiliary Verbs Usage (動詞と助動詞の使い方の全体的な復習)
(会話の練習)

[履修に当たっての留意点]

授業に出席し参加すること。授業の準備をすること。指示のあったように発音の練習をすること。

[使用テキスト・参考文献]

How Are You Doing? - A Short Course of English for Children and Adults; Marek Grzebyk, 2021 (子供と大人のための英語の短いレッスン)

テキストは自分で準備します。

[単位認定の方法及び基準]

試験 (70%) と授業への参加 (30%)

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 健康教育		授業の種類 講義		授業担当者 星野 邦彦	
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 2年 前期		必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 保健授業指導の実務経験をもとに、日々の生活の中で、生活習慣病を防ぐためにはどのような生活習慣を身につけるべきかを、具体的な例を挙げながら授業を展開していく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] ・生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、日常生活の健康施策を理解する。 ・身体運動をとおして、健康増進や発病予防の一次予防に関わることを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間にとって健康を考えることの意味、疾病やその対処法、心の健康と保持、社会と健康との関わり具体的な体力の把握と体力増進の方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・健康の概念・定義について理解するとともに、歴史的・社会的背景と流れを把握する。 ・生涯にわたる健康の保持増進のあり方について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフスタイルと健康:健康を増進するためのライフスタイルを医療費や環境など社会的側面を含め総合的な視点で説明する。 2. 生活習慣病について:生活習慣病や三大死因などの原因や特徴、基礎的知識の獲得、それらと運動との関連について説明する。 3. 肥満について:肥満の原因となる体脂肪の役割や肥満の測定方法などを学び、改善策として代謝や運動食事との関連について説明する。 4. 骨と運動:骨の役割と構造を理解し、骨の強化や骨の発達に応じた運動について説明する。 5. 加齢について:サルコペニアが引き起こす身体問題や運動の重要性について説明する。 6. 子どもの体力と運動:現在の子どもの取り巻くスポーツ・運動の環境について説明する。 7. いろいろな環境下で安全に運動を行う:いろいろな環境下で安全に運動を行う際の留意点を理解し、パフォーマンスとの関連を説明する。 8. ストレスと運動:運動がストレスをはじめ、心や脳に与える影響、効果や働きかけについて説明する。 					
<p>[履修に当たっての留意点] 各回の授業において学習の手引きを活用し、単元の理解を深める。 各自の生活習慣を把握し、授業に取り組む。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] これからの健康とスポーツの科学 第5版 安部孝・琉子友男 著 講談社</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験70%出席状況30%により総合評価をおこなう。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 体育実技		授業の種類 実技		授業担当者 星野 邦彦	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 1年 後期		必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 体育授業指導の実務経験をもとに、学生個々の運動能力を把握し、全員が楽しく運動に取り組めるよう工夫をしながら授業を展開していく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 健康で心豊かな生活を営むための生涯スポーツの一環として、学生生活の充実を図る。スポーツを通して、行い方、競い方、技術の高め方などについて理解を深める。また、福祉保育にかかわる学生として障害者スポーツへの理解も深め、実践していく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生涯体育スポーツとして、参加者全員が楽しめるよう、各競技においてルールの工夫やゲーム内容について互いに話し合いの場を設け、学生同士の自主性が育つよう授業を展開していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 健康で豊かな生活を送るためにスポーツを生活の中に取り入れ、スポーツ実践を通じて健康の保持・増進に努めるとともに、周囲の人々と協力してスポーツを楽しむ態度・習慣を身に付ける。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 授業方法 評価方法等についての説明 2. 参加者全員が楽しめるためのルールの工夫 ソフトバレーボール 3. ソフトバレーボール チーム対抗戦 4. 表現 だんべえ踊り 5. 苦手な者も積極的に参加できるルールの工夫 バレーボール 6. バレーボール チーム対抗戦 7. 苦手な者も積極的に参加できるルールの工夫 バスケットボール 8. バスケットボール チーム対抗戦 9. 安全面の考慮・工夫 ドッジビー 10. ルールの工夫 ドッジビー チーム対抗戦 11. 全員が楽しめるためのゲーム運びの工夫 バドミントン 12. バドミントン ダブルス チーム対抗戦 13. 全員が楽しめるためのゲーム運びの工夫 卓球 14. 卓球 ダブルス チーム対抗戦 15. まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] 日々の体調管理をしっかりと行う。 運動に適した服装で授業に参加する。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 必要に応じて資料等配布			[単位認定の方法及び基準] 出席・活動状況70%、実技試験30%により総合評価をおこなう。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育原理		授業の種類 講義	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・前期	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭の現場経験から、幼児教育の基礎や専門的な知識の必要性を踏まえ、現代的視点を捉えながら授業を行う。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい] 就学前の保育施設の多様化や現代社会の変化に伴う子どもや家庭の変化を理解し、保育を展開していくために保育者として守るべき大切な基礎・基本を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育全般について理解し、乳幼児の発達過程を理解する。また、年齢や発達段階に応じての保育内容や保育の方法など専門職としての知識を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の目的、歴史、内容を理解し子どもの発達や生活や遊びについて理解し説明することができる。 ・保育の専門性としての役割を説明することができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育を学ぶこと、保育者に求められていることについて解説する。(第1章・演習1, 2)【講義】 2.子ども理解について説明する。(第2章・演習1～6)【講義】 3.西洋の保育の歴史と日本の保育について説明する。(第3章・演習1)【講義】 4.保育の理念を支える法規について解説し、子どもの権利条約等について説明する。(第4章・演習1)【講義】 5.幼稚園、保育園、認定こども園の制度と機能について解説する。(第5章・演習1～4)【講義】 6.少子化時代の子どもの現代の様々な保育の場について説明する。(第6章・演習1, 2, 3,)【講義】 7.保育の目標と保育の内容について解説する。(第7章・演習1～4)【講義】 8.環境を通して行う教育について解説する。(第8章・演習1)【講義】 9.子どもの発達と個別支援の必要な子どもについて説明する。(第9章・演習1)【講義】 10.保育計画と評価について説明する。(第10章・演習1, 2, 3)【講義】 11.幼・保・小連携について説明する。(第11章・演習1, 2,)【講義】 12.日本の保育の現状と課題について解説する。(第12章・演習1, 2, 3)【講義】 13.子育て支援の必要性や今後の課題について説明する。(第13章・演習1～4)【講義】 14.海外の保育と保育者のあり方について説明する。(第14章・演習1、第15章・演習1, 2, 3)【講義】 15.まとめ 			
<p>[履修に当たっての留意点] 保育に必要な用語や出来事や法令などについて興味関心を持ち、積極的に授業に参加し理解を深めていく。必要なことは、ノートに書き覚えていく。</p>			
[使用テキスト・参考文献] 生活事例からはじめる保育原理 青踏社		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80% 受講態度出欠席遅刻等 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 教育原理		授業の種類 講 義		授業担当者 市川 貞 男	
授業の回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 公立学校教員としての実務経験、教育委員会指導主事としての教育・保育現場への指導経験、教育福祉系大学での教育研究を活かして、教育現場との有機的な関連性を感じさせるような授業を展開する。					
[授業の目的・ねらい] 保育者や教員を目指す者に必要な教育に関する理念、思想、制度や歴史について理解するとともに、教育や保育にかかわる今日的な課題について考えられるようにする。					
[授業全体の内容の概要] 教育の基礎的な理論、思想、制度や歴史などを概観して、教育学の基礎的な知識と教育制度の基本的な仕組みや役割を学び、教育にかかわる今日的な課題や社会的制度的環境について考察する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 本質や意義、教育制度の目的や内容について理解する。 2. 教育の歴史から、教育のあり方や子どもの捉え方など家庭や社会における教育について理解する。 3. 幼児教育や保育において重要な教育理論や思想について理解する。 4. 幼児期の教育をめぐる現在の動向について関心を持ち、教育を担う側の視点から考えることを身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] この授業はテキストに沿って講義を中心に進め、適宜、教育にかかわる今日的な課題について、学生と教員間、学生と学生間のディスカッションを取り入れる。					
コマ数					
1.【教育の本質・意義】 教育とは何か、教育の必要性や可能性、保育との関連について概説する。(講義「人物で学ぶ 教育原理」第1章)					
2.【西洋の教育思想①】 コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチの思想について概説する。(講義 同上 第2章)					
3.【西洋の教育思想②】 フレーベル、デュイ、モンテッソーリの思想について概説する。(講義 同上 第2章)					
4.【日本の教育思想①】 貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想について概説する。(講義 同上 第3章)					
5.【日本の教育思想②】 森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想について概説する。(講義 同上 第3章)					
6.【外国教育史】 古代ギリシャから近代ヨーロッパにおける教育思想や歴史を概説する。(講義 同上 第4章)					
7.【日本教育史】 古代から昭和初期までの日本の教育思想や歴史を概説する。(講義 同上 第5章)					
8.【教育制度と教育実践】 学校制度としての教育の仕組みと変革、その内容や方法について概説する。 (講義「人物で学ぶ 教育原理」第6章、「保育者・小学校教員のための教育制度論」第1章・第2章)					
9.【学校教育に関する仕組み】 学校の基本的な仕組みについて概説する。(講義「保育者・小学校教員のための教育制度論」第3章・第6章)					
10.【就学前の教育・保育に関する仕組み】 就学前の教育・保育、児童福祉に関する基本的な仕組みを概説する。(講義 同上 第4章・第5章)					
11.【教育行政・学校経営の仕組み】 教育活動を支える教育行政・学校経営の仕組みや近年の改革動向について概説する。(講義 同上 第9章)					
12.【教員に関する仕組み】 教員を支える教員制度について概説する。(講義 同上 第8章)					
13.【特別支援教育の仕組み】 特殊教育から特別支援教育への転換や、体制整備について概説する。(講義 同上 第7章)					
14.【問題行動への対応や安全に関する仕組み】 子どもの問題行動や事故について概説し、学校安全について考察する。(講義 同上 第10章・第13章)					
15.【まとめ】 保育や教育の今日的な課題と改革の動向について概観し、これまでの学びを振り返ってまとめをする。					
[履修に当たっての留意点] 1. 各回の事前事後に、テキストの「学習の手引き」を活用すること。 2. 日ごろから教育に関する報道に関心を持って、情報収集に心がけること。					
[使用テキスト・参考文献] 「人物で学ぶ 教育原理」中村弘行(三恵社) 「保育者・小学校教員のための教育制度論」 内山絵美子 他 編著(教育開発研究所)			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験80%・授業の参加状況・提出物等20%で成績評価を行う。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子ども家庭福祉		授業の種類 講 義		授業担当者 橋本 祐	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 少子化や核家族化が社会的問題として取り上げられ、それに伴って家庭の養育機能の低下に注目が集まっている社会背景や、社会全体で子育て支援をしていく必要性を理解する。さらに、保育者の専門性としての子どもの権利擁護、及び最善の利益について、福祉的臨床観を身に付けていく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] この授業の根幹となる児童家庭福祉の基本理念と法体系について学んでいく。さらに児童の権利条約に基づく子どもの人権を社会全体で擁護していく必要性を学び、保育者として必要な専門知識について解説していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義のオリエンテーションを行い、子ども家庭福祉の理念と概念について理解する。 2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷を理解し、現代社会と子ども家庭福祉について学ぶ。 3. 子ども家庭福祉の構造とデータから現代の子どもについて理解する。 4. 子どもの権利擁護における歴史の変遷や条約、また子どもの権利を護る仕組みについて講義を行う。 5. 子ども観の変遷・児童の権利に関する条約と我が国の現状について講義を行う。 6. 児童福祉施設の種別について概観し、実習に対する意識を高める。 7. 障害者総合支援に基づく施設の種別について概観し、実習に対する意識を高める。 8. 子ども家庭福祉の専門職や実施者について理解し、将来的に専門家として働く自身を意識できる。 9. 児童相談所の機能及び、要保護児童対策地域協議会について理解できる。 10. 少子化と子育て支援サービスや母子保健、また多様な保育ニーズへの対応について学ぶ。 11. 児童虐待、ドメスティックバイオレンスの防止・社会的養護について学ぶ。 12. 障害のある子どもや、非行、貧困・外国につながる子どもとその家族について学ぶ。 13. ひとり親家庭や、現代の子ども家庭福祉の課題と展望について講義を行う。 14. 子ども家庭福祉の歴史を概観する。 15. まとめと考察。 					
<p>[履修に当たっての留意点] 遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 吉田眞理(2018) 児童の福祉を支える子ども家庭福祉			[単位認定の方法及び基準] 授業態度30% 試験 70%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 社会福祉		授業の種類 講義		授業担当者 伊藤 弘子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・前期	必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 精神保健福祉士として、医療・福祉の現場でソーシャルワーカーとして勤務してきた経験を活かし、社会福祉の基礎を実際の事例を示しながら講義していく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基本的理念・原則を学ぶ。 2. 社会福祉の歴史的展開を踏まえて、現在の仕組みを理解する。 3. 社会福祉援助活動の方法を概観し社会福祉に関わる専門職としての保育士の位置づけを理解する <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会福祉の歴史、理念、法体制、実態を学習し、時代の流れの中でどのような発展をしてきたかについて学ぶ。また、被援助者とそのニーズ、福祉行政の変遷、社会福祉の援助方法、専門職の課題、利用者保護等について学習する中で、保育分野との関連についても理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の意義、法体系、実施体系の概要が理解できるようになる。 2. 多職種間での連携と相互支援の重要性について理解できるようになる。 3. 地域で起こる様々な生活課題に対する相談援助技術や苦情解決の仕組みが把握できるようになる。 4. 児童の人権や家庭支援について、社会福祉及び児童福祉の視点から理解できるようになる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉への理解:福祉的課題を身近なものとして捉え、社会福祉の基本を理解できるよう概説を行う。【講義】 2. 社会福祉の歴史①(欧米):欧米における社会福祉の歴史について講義を行う。【講義】 3. 社会福祉の歴史②(日本):日本における社会福祉の歴史について講義を行う。【講義】 4. 子どもと家庭と福祉①:妊娠から出産、養育にかかわる制度について解説を行う。【講義】 5. 子どもと家庭の福祉②:子どもの貧困、関連行政機関、子どもの権利について解説を行う。【講義】 6. 子どもと家庭の福祉③:児童福祉関連施設やサービス利用の仕組み、関連法についての解説を行う。【講義】 7. 子どもが出生してから高校を卒業するまでの間に必要な支援をまとめる。【講義・演習】 8. 社会保障:医療保健・年金制度を中心に社会保険を解説する。【講義】 9. 障がい児・者福祉①:障がいの捉え方、障がい児・者福祉について講義を行う。【講義】 10. 障がい児・者福祉②:障がいの種類、関連法・制度についての解説を行う。【講義】 11. 地域福祉:地域福祉の概説、地域福祉を支える機関・団体について解説を行う。【講義】 12. ソーシャルワーク:保育士とソーシャルワークの関連性、技法・援助技術に関して解説を行う。【講義】 13. 低所得者の福祉:生活保護の基本的な考え方や種類について解説を行う。【講義】 14. 高齢者福祉:介護保険制度及び利用者保護について解説を行なう。【講義】 15. まとめと解説 科目全体の総括を行なう。 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>テキスト内で提示される事例を事前に読み、授業の概要を理解してから授業に臨む。毎回、授業に関するシートの提出を課すので、必ず提出すること。授業で配布された資料は、大切に保管し、復習に活用すること。</p>				
[使用テキスト・参考文献] 直島正樹・原田旬哉編著 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 萌文書林、2017		[単位認定の方法及び基準] 確認テスト 10%・定期テスト 60%・受講態度 30%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子ども家庭支援論		授業の種類 講義		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園教諭の経験や子育て時に行った小学校の評議員や学習ボランティアでの経験を活かし、子どもの発達とその保護者の抱える問題や地域社会との連携等について実際の子どもを取り巻く環境について触れながら行う。					
[授業の目的・ねらい] 多様性を増し変化し続ける現代社会の家庭の姿を理解し、家庭を支援する理論を学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 子育て家庭を取り巻く社会状況の変化や子育て家庭への支援体制について理解し、家庭支援の意義や保育者としての新聞報道や身近な事例と演習を交えながら具体的に学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・現代社会における家庭支援の必要性とその実際を理解し寄り添えるようになる。 ・子どもの保育に関する相談・援助・助言等に取り組むための手法を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.子ども家庭支援の意義と役割(家庭支援の意義と必要性について解説する。)演習問題1-1(講義) 2.子ども家庭の目的と意義(家庭支援の機能について解説する。)演習問題1-2、3(講義) 3.子どもの発達と親発達(人の人生について解説する。)(講義) 4.保育士の専門性を活かした子ども家庭支援と意義(ジェノグラム、エコマップ、社会資源について調べ説明をする。)演習問題3-1、2、3(講義) 5.子どもの育ちの喜びの共有(ロールプレイ、ディスカッションについて説明し実践する。)演習問題3-4、5、6(講義・グループワーク) 6.保護者及び地域が有する子育て(保護者の養育力向上について解説する。)演習問題3-7、8(講義) 7.保育士に求められる基本的態度(ロールプレイをする。)演習問題3-9、10、11、12、13(講義・グループワーク) 8.家庭の状況に応じた支援(相談対応と家庭機能と地域資源の活用を説明する。)演習3-14、15、16(講義) 9.子育て家庭の支援体制(保育士になったつもりで考えてみる。)演習問題4-1(講義) 10.子育て支援施策(ロールプレイをする。)演習問題4-2(講義・グループワーク) 11.次世代育成支援施策の推進(ワークライフバラ、男女共同参画を説明する。)演習問題4-3(講義) 12.多様な支援の展開と関係機関との連携(児童虐待やDV、保育所保育を解説する。)演習問題5-1(講義) 13.地域子育て家庭への支援(要保護児童への対応について説明する。)演習問題5-2(講義) 14.現状と課題(近隣会議を通じた支援について解説する。)講義 15.まとめ					
[履修に当たっての留意点] 自分の考えをまとめ演習問題に取り組む。グループワークでの積極的な発言をしていくことを心掛け、他者の意見にも耳を傾ける。保育者になったことを想定して考えていく。					
[使用テキスト・参考文献] 児童の福祉を支える家庭支援論			[単位認定の方法及び基準] 定期試験80% 受講態度、出欠席遅刻、提出物等20%		

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 社会的養護 I		授業の種類 講義	授業担当者 大山 知恵子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（2）	配当学年・時期 福祉保育学科 1年 後期	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 特別支援教育に携わってきた、児童・生徒の中には施設から通学している子や、家庭から通学していたが途中から施設入所となる子もいた。そういった子どもたちに関わってきた経験を活かして、社会的養護の意義や現状について伝えていく。</p>			
<p>〔授業の目的・ねらい〕 入所施設におけるケアの基礎を提供するだけでなく、「社会的養護」として、社会全般における児童養護の価値基礎を提供することを目指す。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 施設入所は閉ざされた場ではなくなり、家庭に近い機能を持つとともに、地域にその機能を開くことを求められ、福祉施設の機能が、社会全体、そして、地域や家庭にも必要とされるように、現在社会の中で子どもの権利をどのように護っていくべきかを習得する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会的養護の原理を総体的に理解し、実践に役立たせる</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目オリエンテーション 社会的養護の理念と概念について概説する【講義】 2. 社会的養護の歴史的変遷について解説する【講義】 3. 社会や家庭の役割について解説する【講義・グループワークと発表】 4. 日常生活支援について解説する【講義】 5. 自己実現に向けた支援について解説する【講義】 6. 治療的支援について解説する【講義・ディスカッション】 7. 自立支援について解説する【講義・グループワークと発表】 8. 生と性の倫理について解説する【講義・ディスカッション】 9. 児童福祉法・児童虐待防止法について解説する【講義】 10. 乳児院と児童養護施設について解説する【講義・視聴】 11. 障害児の入所施設について解説する【講義】 12. 児童自立支援施設と児童心理治療施設について解説する【講義・視聴】 13. 里親とファミリーホームでの養育について解説する【講義・ディスカッション】 14. 社会的養護の現状と課題について解説する【講義】 15. 被措置児童等の虐待防止について解説する・まとめ【講義】 			
<p>〔履修に当たっての留意点〕 提示された課題は、次の授業までに調べる。疑問に思ったことは調べたり質問をしたりして、しっかりと理解する。</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕 『児童の福祉を支える 社会的養護 I』 萌文書林 編著者 吉田眞理 著者 高橋一弘 村田紋子		〔単位認定の方法および基準〕 試験50%・提出物50%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育者論		授業の種類 講義		授業担当者 清水 美弥子	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園、保育園、育児コンシェルジュでの勤務経験を基に、実際の保育現場で求められる保育者の専門性について知り、保育職への意識を高め、自身の保育観を形成出来る様導いていく。					
[授業の目的・ねらい] ・保育者の役割や求められている専門性について学び、保育者としての同僚、保護者、地域、関係機関等との連携・協働や資質向上とキャリア形成に努める力を養う。					
[授業全体の内容の概要] ・保育の現場における子ども・保護者・同僚・地域・関係機関等とのかかわりの場面から保育者の仕事とはどのようなものなのか考察し、保育者の専門性について理解を深める。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 保育者の役割と倫理についての理解 2. 保育士の制度的な位置づけの理解 3. 保育士の専門性についての考察と理解 4. 保育者の連携・協働についての理解 5. 保育者の資質向上とキャリア形成への理解					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 保育者とは…保育者の役割<講義→ワーク>(第1章) 2. 保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭・施設保育士)の1日の流れ<講義→ワーク>(第2. 3. 4章) 3. 保育者に求められる倫理<講義→ワーク>(第5章) 4. 保育者の制度的位置づけ<講義→ワーク>(第6章) 5. 保育者の専門性①保育者の資質・能力<講義→ワーク>(第7章) 6. 調べ学習を保育に活かす①<講義→ワーク> 7. " ②<ワーク仕上げ> 8. " ③<発表→解説> 9. 保育士の専門性②養護および教育の一体的展開 <講義→ワーク>(第8章) 10. " ③保育の質の向上 <講義→ワーク>(第9章) 11. " ④計画に基づく保育の実践と省察・評価 <講義→ワーク>(第10章) 12. 保育者の連携・協働①園内の保育者チームおよび家庭との連携 " ②専門機関や地域との連携 <講義→ワーク>(第11.12章) 13. 保育者としての葛藤<講義→ワーク>(第13章) 14. 保育の現代的な問題<講義→ワーク>(第14章) 15. 総まとめ <保育者を目指す者として…自身の課題の明確化><講義→まとめワーク>(第15章)					
[履修に当たっての留意点] 子どもを取り巻く環境や保育に関する社会の動きに関心を持ち、自ら調べたり、考えたりする。					
[使用テキスト・参考文献] 『保育者論－主体性のある保育者を目指して－』 野津直樹・宮川萬寿美 編著 萌文書林			[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など) 授業態度40%、課題への取り組み60%を目安とし、 総合的に評価する。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育の心理学		授業の種類 講 義		授業担当者 橋本 祐
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・前期	必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。				
[授業の目的・ねらい] 1. 保育に必要とされる心理学的知識を学び、子どもの行動に対する理解を深める。 2. 保育現場において生じる問題や課題に対する理解を深め、適切な対応を学ぶ。				
[授業全体の内容の概要] 保育現場における様々な状況を想定し、子どもと発達と心理的側面から考察を行う。また事例を通じて子どもや保護者に対する支援のあり方について学ぶ。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 心理学における学問的意義や今後の学習に対するオリエンテーションを行う。 2. 発達の原則やその要因について解説する。 3. 子ども観の変遷と、発達の理論について講義を行う。 4. 情動の発達や、愛着の問題、アイデンティティや非認知能力について講義を行う。 5. 身体機能、運動機能の発達について解説する。 6. 認知発達とピアジェの理論について学ぶ。 7. 言語発達と非言語能力、ヴィゴツキーの理論について講義を行う。 8. 心理査定の意味や、心理検査と知能検査、それを用いた支援について解説する。 9. 0歳から5歳にかけての発達について解説する。 10. 学童期から老年期にかけて解説する。 11. 学習理論や条件付けについて学ぶ。 12. パーソナリティについて、古典的な類型論と特性論について学ぶ。 13. 遊びの過程と意味とソーシャルスキルトレーニングについて講義と演習を行う。 14. 心理学史における、各理論の位置付けについて解説を行う。 15. まとめと解説。				
[履修に当たっての留意点] 遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。				
[使用テキスト・参考文献] 大浦賢治(編)(2020) 実践につながる新しい保育の心理学		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 30% 試験 70%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 講 義		授業担当者 橋本 祐
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・後期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。				
[授業の目的・ねらい] 子どもたちだけでなく、子どもたちがそこで生まれ人格形成をする場である家族の役割や機能を理解し、実際に保育園等で出会う子どもと家庭の出来事に対応するための知識基盤と感性を育成することを目的とする。				
[授業全体の内容の概要] 教科書に基づき、基本的な知識を学習する。そして事例や演習課題を通して、保育者としての福祉観や、対応の方法を考えていく。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとの過程を包括的にとらえる視点を取得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のオリエンテーション。幼児期から学童期にかけての発達の特徴を確認する。 2. 学童期の発達とその特徴および思春期の始まりについて振り返り、親子関係について理解する。 3. 思春期・青年期の親子関係・仲間関係と道徳性について学び、親子関係が問われる問題について考える。 4. 心理社会的モラトリアムとアイデンティティ形成について自分を振り返りながら学ぶ。 5. 成人期から高齢期の発達の特徴について、親世代の抱える課題を通して理解していく。 6. 老年期の課題と家族について理解を深める。 7. 家族システムと家族発達について、家族をシステムとしてみる視点について学び、家族療法を理解する。 8. 家族の発達について、構成員の年齢とともに機能が変化していくことを学ぶ。 9. 親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達について、不適切な養育や愛着の問題などとともに学習する。 10. 愛着の重要性を、発達障害とパーソナリティ障害の問題とともに解説する。 11. 子育て環境の社会状況変化とワークライフバランスについて、アロマザリングの考え方とともに学ぶ。 12. 多様な子育て家庭への支援について、子育て支援の重要性について考える。 13. 特別な配慮を必要とする家庭への配慮について、貧困や、虐待、精神疾患等の視点から考える。 14. 基本的な生活習慣と幼児期・学童期にみられる精神障害について、具体的な事例をもとに学ぶ。 15. 災害と子どもについて、PTSDや災害時の子どもの適応行動や遊びについて理解する。 				
[履修に当たっての留意点] 遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。				
[使用テキスト・参考文献] 本郷一夫・神谷哲司(編著、2019)「子ども家庭支援の心理学」		[単位認定の方法及び基準] 授業参加態度 20% エッセイ 20% 定期テスト 60%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子どもの理解と援助		授業の種類 演習		授業担当者 塚越 亜希子	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どもを理解するという点について現場の事例をもとに解説する。また、園生活における遊びや生活の実態に即した子どもの姿の捉え方とそこで生じるつまずきやその要因について具体的に紹介し、自らの経験に基づいてその対応方法と留意事項を講じることで、学生が子ども理解を深めるための知識と援助技術を習得できるよう授業を展開する。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子ども理解は保育のあらゆる営みの基本となるものである。園生活における子どもの遊びや生活の実態に即して子どもの発達を捉え、そこで生じるつまずきとその要因を把握するための留意点と対応の方法を具体的に考え、援助技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子ども理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身に付ける。また、保育におけるさまざまな記録について学び、個々の発達や学びを把握するための方法と援助について理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①子どもを理解するための具体的な方法を身に付ける。 ②保育実践において、個々の発達や学びの過程を把握する必要性を理解する。 ③保育士の援助や態度、記録、共有について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション ・「子ども理解」とは ・授業概要説明、子どもを理解するとはどのようなことかを学ぶ。【演習】 2.子ども理解から始まる保育 ・共感的理解と関わりなどについて学ぶ。【演習】 3.子どもを理解する方法 ・指針や要領にみる子どもの理解の基本などについて学ぶ。【演習】 4.子どもの育ちの様子 ・子どもの生活と遊びなどについて学ぶ。【演習】 5.子ども同士の関わり ・子どもの同士の関わり、子どもと保育者の関わりなどについて学ぶ。【演習】 6.集団の関わり ・子どもが集団生活で得ることなどについて学ぶ。【演習】 7.葛藤とつまずき ・子どもの葛藤やつまずきなど理解し援助などについて学ぶ。【演習】 8.保育の環境理解と構成 ・保育における環境とは何かなどについて学ぶ。【演習】 9.環境の変化 ・子どもを取り巻くさまざまな環境の変化などについて学ぶ。【演習】 10.子ども理解と発達援助 ・子どもの個人差と発達過程、援助などについて学ぶ。【演習】 11.特別な配慮を必要とする理解と援助 ・インクルーシブ保育、困り感への気づき、個別指導計画を学ぶ。【演習】 12.発達の連続性と就学への支援 ・子どもの発達と学びのさまざまな連続性などについて学ぶ。【演習】 13.観察、記録 ・子どもを理解するための観察、記録などについて学ぶ。【演習】 14.保育者、保護者の情報共有 ・子ども理解のための保育者と保護者との情報共有を学ぶ。【演習】 15.まとめ ・子どもの理解と援助について振り返る。【演習】 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>○オンライン授業に変更になった場合は学修効果を考慮し、講義内容を変更することがある。</p> <p>○授業形態にかかわらず、積極的に授業に参加し、周囲と協調しながら学習すること。</p> <p>○授業内の学びと実習での学びを結びつけ、子ども理解をより深めること。</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
『子どもの理解と援助 子ども理解の理論及び方法 ドキュメンテーション(記録)を活用した保育』 入江礼子、小原敏郎 萌文書林			①授業(グループワークなど)への取り組み状況 25% ②授業内の課題提出(内容及び提出状況) 25% ③科目試験(もしくは課題レポート) 50%		

授業概要

授業のタイトル (教科名) 子どもの保健		授業の種類 講義	授業の担当者 李 英姿
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子どもの保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。特に発育・発達が目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の知識と事故の予防などの知識について理解する。また、保育における環境及び衛生管理並びに安全管理・実施体制について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの成長・発達過程の特徴を把握し、遺伝と環境の2大要因の見地から、子どもの罹りやすい病気について学び、理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常子どもの各段階の発育・発達について把握する。 2. 子どもによくみられる疾病とその予防対策を習得する。 3. 小児に多い事故とその予防対策を習得する。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：子どもの保健の実践と課題について概説する 2. 講義：ディスカッション：子どもの身体発育の経過と発育曲線について説明する 3. 講義：視聴：身体発育とその評価について説明する 4. 講義：視聴：呼吸・循環・免疫・消化機能の発達について説明する 5. 講義：視聴：尿排泄・体温調節・内分泌機能の発達について説明する 6. 講義：感覚・神経機能の発達について説明する 7. 講義：子どもの病気の特徴について概説する 8. 講義：感染症について説明する 9. 講義：先天異常について説明する 10. 講義：内科疾患・乳幼児突然死症候群について解説する 11. 講義：子どもの精神保健について説明する 12. 講義：発達障害について解説する 13. 講義：ディスカッション：保育現場の事故防止と安全対策について解説する 14. グループ討論：まとめ学習する 15. 講義：復習と解説を行う 			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。</p>			
[使用テキスト・参考文献] 子どもの保健 I 　ななみ書房 参考資料は随時提示		[単位認定の方法及び基準] 期末試験 80%　ノート 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子どもの食と栄養		授業の種類 演習	授業担当者 平石 仁恵
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年 前期	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>教育機関からの要請により、主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っている。支援対象家庭は食生活の問題を高率に抱えている。栄養を摂取するだけの食ではなく、広い意味での食生活を考えたい。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>食事は単なる栄養源ではなく、おいしく食べ、心を育むものである。本科目は、食生活の意義や栄養に関する知識と技術の習得を目的とする。また、演習や発表を通じて食に関する情報共有を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。</p> <p>*本科目は調理実習が予定されていますが、新型コロナウイルス感染症の状況により、授業内容や実習時期、実習内容を変更する可能性があります。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素、食文化、食物アレルギー、食育について、それらの内容と重要性が理解できる。 ・目的に合った調理、衛生行動、献立作成ができるようになる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 講義の進め方、課題、評価方法について説明する(講義)。 2. 子どもの健康と食生活の意義について解説する(講義)。自身の食生活をチェックする(演習)。 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 4. 食事摂取基準と献立作成・調理の基本(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 5. 実習室の使い方、衛生管理についての説明をする(講義)。献立作成(演習)。生徒プレゼン(発表) 6. 炊飯と水加減。かつおだしの取り方。調理と試食(実習)。 7. 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について解説する(講義)。生徒によるプレゼン(発表)。 8. 卵料理、茹で野菜、洋風スープ。調理と試食(実習)。 9. 幼児期の心身の発達と食生活について解説する(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 10. 幼児期の間食の調理と試食(実習)。 11. 学童期の心身の発達と食生活について解説する(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 12. 学童期の間食の調理と試食(実習)。 13. 生涯発達と食生活について解説する(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 14. 妊娠期の貧血に勧めたい調理と試食(実習)。 15. まとめと解説。 			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。 ・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することを勧める。 			
[使用テキスト・参考文献] 「発育期の子どもの食と栄養」菅原 園 他、学建書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 50% 課題発表・実習態度 50%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子どもの食と栄養		授業の種類 演習	授業担当者 平石 仁恵
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年 後期	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>教育機関からの要請により、主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っている。支援対象家庭は食生活の問題を高率に抱えている。栄養を摂取するだけの食ではなく、広い意味での食生活を考えたい。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>食事は単なる栄養源ではなく、おいしく食べ、心を育むものである。本科目は、食生活の意義や栄養に関する知識と技術の習得を目的とする。また、演習や発表を通じて食に関する情報共有を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。</p> <p>*本科目は調理実習が予定されていますが、新型コロナウイルス感染症の状況により、授業内容や実習時期、実習内容を変更する可能性があります。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素、食文化、食物アレルギー、食育について、それらの内容と重要性が理解できる。 ・目的に合った調理、衛生行動、献立や食育便りの作成ができるようになる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における食育の基本的考え方と評価方法について説明する(講義)。 2. 食育のための環境について解説する(講義)。食育便りの作成(演習)。 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(講義)。 4. 地域の関係機関、職員間の連携について解説する(講義)。保護者支援グループワーク(演習)。 5. 家庭における食事と栄養。実習レシピの解説(講義)。 6. 特定栄養素強化食の調理と試食(実習)。 7. 児童福祉施設における食事と栄養について解説する。実習レシピ解説(講義)。 8. 給食で供される料理の調理と試食(実習)。 9. 疾病および体調不良のある子どもへの対応を解説する。実習レシピの解説(講義)。 10. 病児に向けた調理と試食(実習) 11. 食物アレルギーについて解説する。実習レシピの解説(講義)。視聴覚教材。 12. アレルギー対応食の調理と試食(実習)。 13. 障害のある子どもへの対応について解説する。実習レシピの解説(講義) 14. 嚥下食の調理と試食(実習)。 15. まとめと解説。 			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。 ・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することを勧める。 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「発育期の子どもの食と栄養」菅原 園 他、学建書院</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験 50% 課題発表・実習態度 50%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害者福祉論 I		授業の種類 講 義		授業担当者 豊田 和泉	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年・後期	必修・選択 必 修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 特別支援学校では「健康の保持・心理的な安定・人間関係の形成・環境の把握・身体の動き・コミュニケーション」の6つを基本的に指導計画を作成しこれを実践していた。授業では、6つの基本をしっかり説明し、学生が、障害のある児童、生徒の気持ちに寄り添い、生活年齢も尊重しながら成長のタイミングを見逃さないことが大切であることを理解してもらえるように、具体例を挙げながらより理解が深められるように進めていく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] ・保育の専門職として、障害の概念や障害福祉の基礎知識について学ぶ。 ・障害のある方と向き合うために必要な知識を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・障害についての基礎的な知識を身につけ、日常生活への影響を与える機会にする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・障害特性の知識を身につけ、実習やボランティアの中で支援を工夫する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業の内容、進め方について説明する。 2.視覚障害、聴覚障害について説明する。 3.重複障害について説明する。 4.肢体不自由について説明する。 5.知的障害について説明する。 6.精神障害について説明する。 7.高次脳機能障害について説明する。 8.難病について説明する。 9.障害のある方から話を聞く。 10.障害者支援法の概要と基本的な考え方について説明する。 11.権利擁護、虐待防止について説明する。 12.地域生活支援について説明する。 13.連携と協働について説明する。 14.障害者福祉の今後の課題について説明する。 15.総合まとめ・解説 					
<p>[履修に当たっての留意点] 学生には、授業成果の達成度を高めるために、授業以外の自主学習(予習・復習)を授業1コマにつき、各回数時間程度促していく。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] ・試験やレポート評価の基準 試験(6)、授業態度(3)、豆テスト(1)		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害者福祉論Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 橋本 祐	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期		必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害者福祉の現状や課題を学ぶことにより、今後の障害者福祉のあり方について自分なりの考えを持つことが出来る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>それぞれの障害における特性について理解を深め、サービスの特徴を押さえながら、自立と参加を支えるための課題を考察する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>①医学的、心理学的、社会的な側面から、各障害の主な特徴を説明できる。</p> <p>②障害者の生活を「当事者」の立場から理解することの必要性と困難さについて、説明できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義：オリエンテーション 障害の基礎的理解 2 講義：障害のある人の生活の理解 視覚障害と聴覚障害を中心とした講義 3 講義：障害のある人の生活の理解 重複障害と肢体不自由を中心とした講義 4 講義：障害のある人の生活の理解 知的障害を中心とした講義 5 講義：障害のある人の生活の理解 精神障害を中心とした講義1 6 講義：障害のある人の生活の理解 精神障害を中心とした講義2 7 講義：障害のある人の生活の理解 高次脳機能障害を中心とした講義 8 講義：障害のある人の生活の理解 発達障害を中心とした講義 9 講義：障害のある人の生活の理解 強度行動障害を中心とした講義 10 講義：障害のある人の生活の理解 重症心身障害を中心とした講義 11 講義：障害のある人の生活の理解 難病を中心とした講義 12 講義：障害のある人に対する支援 意思決定支援、アセスメント、社会資源に関する講義 13 講義：家族への支援 14 講義：連携と協同 15 まとめと解説 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座13（第4版） 「障害の理解」			[単位認定の方法及び基準] 試験 60% 授業参加 40%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育の計画と評価		授業の種類 講義		授業担当者 白石 啓子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・前期	必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>担当教員は、幼稚園、保育園、認定こども園にて幼稚園教諭、保育士、保育教諭として勤務していた経験を活かし、保育内容を組織的・計画的に実践するための「教育課程」および「全体的な計画」、「指導計画」等の作成について学び、その実践記録及び評価反省を次に活かすために必要な知識と方法について理解できるよう導いていく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ②全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ③子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育の計画と評価の基本を理解する。保育所における保育の計画について理解し、「全体的な計画」「指導計画」の作成と実践における留意事項等について理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①保育の計画及び評価について事例を通し、理解を深める。 ②保育の記録および省察、保育士・保育所の自己評価、保育の質の向上に向けた改善への取り組みについて理解する。 ③生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童要録について理解する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション・保育の計画と評価の基本 【講義→ワーク】 2.幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育の計画(園の一日の流れを知る) 【講義→ワーク】 3.行事への参加①(グループ・出し物を決める) 【講義→グループワーク】 4.行事への参加②(出し物の準備・練習) 【講義→グループワーク】 5.園庭遊びに参加して①(計画・実践・振り返り・評価・改善) 【発表→共有→解説】 6.園庭遊びに参加して②(計画・実践・振り返り・評価・改善) 【発表→共有→解説】 7.園庭遊びに参加して③(計画・実践・振り返り・評価・改善) 【発表→共有→解説】 8.教育課程および全体的な計画等の編成の実際と指導計画 【講義→ワーク】 9.行事への参加③(出し物の準備・練習・仕上げ) 【グループワーク→講義】 10.行事への参加④(実践) 【講義→グループワーク】 11.行事への参加⑤(振り返り・評価) 【グループワーク→発表→共有→解説】 12.指導計画(長期的・短期的)の作成と実際 【講義→ワーク】 13.指導計画案(日案)の作成 【講義→ワーク】 14.保育の記録と省察 【講義→ワーク】 15.保育の評価と改善・まとめ 【講義→ワーク】 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>授業に積極的に参加し、同僚性を高めながら学習する。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『保育の計画と評価―豊富な例で1からわかる』 宮川萬寿美編著 野津直樹 内山絵美子他 萌文書林 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度(意欲・態度・グループワーク・協調性・発表など)と試験結果を総合的に評価する</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育内容総論		授業の種類 講義		授業担当者 霜田 道代
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年 前期	必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 保育園での実務経験を活かし、生活や遊びなど経験談、実践例を交えながら授業を行う。				
[授業の目的・ねらい] 保育原理や幼児理解を基礎に置き、子どもの姿からどのように保育を構成していくかを学ぶ。 幼児教育の基本である環境を通して行う教育について理解し、実践につなげられるようにする。				
[授業全体の内容の概要] 幼児教育の基本、幼児理解、保育方法、保育内容、組み立て方などについて総合的に学ぶ。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・環境を通して行うこと教育とは何かについて理解する。 ・子どもにとって遊びは学びであるということを理解する。 ・保育の中で幼児理解や環境構成について理解する。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 「保育」とは何かについて考察する。(ディスカッション) 2. 幼児教育の基本①5領域について学ぶ。(講義、ディスカッション) 3. 幼児教育の基本②環境を通して行う教育について学ぶ。(講義・ワーク) 4. 保育内容の変遷について学ぶ。(講義・ワーク) 5. 子どもの生活場面と保育内容について考察する。(講義・ワーク) 6. 年齢に応じた保育について考察する。(講義・ディスカッション) 7. 子どもにとって遊びとは①事例を通して考察する。(講義・ディスカッション) 8. 子どもにとって遊びとは②非認知能力について学ぶ。(講義) 9. 協同的な学びについて考察する。(講義、ディスカッション) 10. 保育現場における行事について考察する。(講義・ディスカッション) 11. 保育における計画の重要性について考察する。(講義・ディスカッション) 12. 保育に求められる多様性について考察する。(講義・ディスカッション) 13. 保育における記録の意義について考察する。(講義・ディスカッション) 14. 保育者の専門性とは、質の高い保育とは何かについて考察する。(ディスカッション) 15. まとめと解説 				
[履修に当たっての留意点] なるべく一人ひとりの発言機会を多く設けたい。自分の言葉で保育のことを語り合える場にしたい。 積極的に発言してください。				
[使用テキスト・参考文献] 生活事例から始める-保育内容-総論 青踏社 保育所保育指針・幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] 定期試験50% 授業態度30% 提出物20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 健康	授業の種類 演習	授業担当者 櫻井 秀雄	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 群馬県教育委員会で指導した生涯スポーツのスポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ等、幼児・児童の発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながらおこなう。			
[授業の目的・ねらい] 心身体の健康に関する領域「健康」の狙いと内容を理解し、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ために具体的な指導のあり方を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 乳幼児期の健康に関して、現代社会の子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの発達段階や具体的な指導方法について習得する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・領域「健康」についてのねらいと内容を理解し、乳幼児期の心身体の発達について理解し説明できる。 ・0歳から就学前の乳幼児の遊びを中心とした保育実践を習得し子どもと遊ぶことができる。 ・食育、安全・衛生指導、安全管理のあり方が分かる。また、保護者への連携と健康指導を学び実践に結びつけ行うことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育について解説し、幼児教育の目的と領域について説明する。(講義) 2.環境を通しての教育と幼児教育の基本について解説する。(講義) 3.保育者の役割と領域「環境」と他の領域との関係について説明する。(講義) 4.運動能力の発達と情緒の安定について解説する。(講義) 5.生活習慣の形成と子どもの発達と事故について解説する。(講義) 6.最近の子どもたちと心身の変化について解説する。(講義) 7.運動能力低下の原因と集団保育の役割を解説する。(講義) 8.乳児・1～2歳児の遊びとルールのある遊び、遊具を使った遊びについて解説する。(講義) 9.様々な遊びと環境構成について解説する。(講義) 10.園児交流(実技) 11.園生活と生活習慣(食と睡眠)について解説する。(講義) 12.当番活動や保育者の役割と家庭との連携について解説する。(講義) 13.安全教育について解説する。(講義) 14.現代社会における今日的な課題について解説する。(講義) 15.まとめ			
[履修に当たっての留意点] 授業に積極的に参加し、子どもの成長と保育者の役割を保育者になった気持ちで考えていく。また、実践につながるように「自分だったら」を想定して考え授業を受ける。			
[使用テキスト・参考文献] *新訂* 事例で学ぶ保育内容 領域 健康		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80% 授業態度、出欠席遅刻等 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 人間関係		授業の種類 演習		授業担当者 白石 啓子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・前期	必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>領域「人間関係」において重要視されている「乳幼児期の子どもの人とのかかわり」について、幼稚園・保育園・認定こども園での勤務経験を基に、事例を挙げて具体的に解説していく。保育者の人とのかかわりは「子ども」「保護者」だけに留まらず、「同僚」や「他の機関」との連携も必須であることから、自らの人間関係の広げ方についてもグループワークなどを通して学んでいく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」における「ねらい」と「内容」を理解し、保育の視点を学ぶ。 ・乳幼児期の人とのかかわりからみた「発達」や「遊び」を通しての育ちについて考察する。 ・保育者の役割について「ケア」の視点からの理解し、「人との関わりを支える」ことについて認識を深める。 ・領域「人間関係」における今日的課題を学び、保育の場の可能性と保育者の姿勢について検討する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間関係」という視点からみた子どもたちの「発達」「学び」について理解し、保育者がその「発達」「学び」をどのように支えるかを具体的に学び、人とのかかわりを大切にした保育実践のための力を身につけることを目指す。 <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場で子どもたちとのかかわる上で「人とのかかわり」についての考え方の基盤を身につけ、実践に活かす。 ・保育の場で子どもたちが身近な人と親しみ、関わりを深めながら、愛情や信頼感をもつための「ケア」について知り、子どもたちが社会生活において望ましい習慣や態度を身につけるプロセスの意味と専門的な視点について理解する。 ・保育者(同僚)、保護者との関わりから、「人間関係」における学びの広がり、深まりを認識し、次につなげることができるようになる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く人間関係(社会的背景をふくめた「人間関係」のとらえ方) 解説→グループワーク 2. 領域「人間関係」と園で育まれる人間関係 解説→ワーク 3. 乳児期の人間関係(この時期の人間関係の発達と生活・遊び、身近な大人とのかかわり) 解説→ワーク 4. 1歳以上3歳未満児の人間関係(この時期の人間関係の発達と生活・遊び、身近な大人とのかかわり) 解説→ワーク 5. 3歳以上児の人間関係(この時期の人間関係の発達と生活・遊び、身近な大人とのかかわり) 解説→ワーク 6. 子どもの人間関係と社会性・道徳性(規範意識の育ちと大人の役割) 解説→グループワーク 7. 多様な配慮と保育構想 8. 子どもの生活の中で育まれる人間関係 解説→グループワーク→発表 9. 子どもの遊びの中で育まれる人間関係 解説→グループワーク→発表 10. 家庭や地域との連携(保護者と保育者の人間関係、地域との連携) 解説→ワーク 11. 小学校生活への接続(領域「人間関係」の今日的課題を考える) 解説→グループワーク→発表 12. 保育の展開と指導計画 解説→ワーク 13. 指導計画と実践 解説→グループワーク→発表 14. 保育者が紡ぐ「人間関係」(保育者自身の人間関係、子ども理解と保育の質の向上) 解説→ワーク 15. まとめ (今後に向けて・・・学びの振り返りと自己の課題の明確化)ワーク→発表→解説 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開により、授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。 				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』菊地篤子著みらい(初版2020年) 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年)		授業態度30%・課題への取り組み40%、提出物30%を目安とし、総合的に評価する。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 環 境		授業の種類 演 習		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・前期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもが環境を通して遊びに取り組むことの大切さなど、実際の子どもの様子について触れながら行う。					
[授業の目的・ねらい] 子どもを取り巻く環境とその関わりについて実践的に学び、保育における環境の重要性やその意味を考えると共に乳幼児期の発達をふまえた環境構成や援助のあり方に理解を深める。					
[授業全体の内容の概要] 領域「環境」について理解し、子どもの発達と豊かな環境との関わりについての知識を深める。 また、保育演習を通して生命の尊さや事物への探究心を養うことの重要性を習得する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・領域「環境」のねらいや内容を理解し、子どもを取り巻く環境との関わりと子どもの発達について理解し、説明できるようになる。 ・保育実践における環境構成と援助のあり方について習得し説明できるようになる。 ・保育の現場で行われる活動を行うことで、その活動のねらいや内容について理解し準備等の留意点が説明できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.領域「環境」についての理解と子どもを取り巻く環境の変化について説明をする。(第1章)【講義】 2.環境の領域について解説する。(第2章)【講義】 3.子どもの生活と環境について解説する。(第3章)【講義】 4.季節感を味わう【行事調べ】(第10章)【調べ学習】 5.自然とふれあい感動する【フィールドビンゴ】(第6章)【実技】 6.物事の法則性に気づく【小麦粘土】(第5章)【実技】 7.身の回りの物に愛着をもつ。【廃材を使って製作】(第5章)【実技】 8.科学を体感する【ビー玉滑り台を作ろう】(第9章)【実技】 9.子どもと自然環境、遊びと環境教育、生命の営みに触れる【生き物の飼い方を調べてみよう】(第6章)【講義】 10.子どもと物的環境、人的環境(第3章・第6章)【講義】 11.子どもと空間との関わり、数量と文字について 秘密の暗号解けるかな?「左右上下」数字の理解(第7章・第8章)【講義・グループワーク】 12.行事や地域環境とのかかわり、社会環境 (第11章)【講義・グループワーク】 13.環境構成について 保育室の環境構成を考えてみよう(第4章)障害児の保育環境(第12章)【講義】 14.環境教育について(第13章)情報メディアについて説明する。(第14章) 【講義】 15.まとめ					
[履修に当たっての留意点] 授業には積極的に参加して受ける。製作等については準備品を忘れずに用意して創意工夫をして行う。					
[使用テキスト・参考文献] [新版]保育内容「環境」			[単位認定の方法及び基準] 授業態度、出欠席遅刻、作品提出等 20% 定期試験 80%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 言葉		授業の種類 講義		授業担当者 霜田 道代	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年 前期	必修・選択 必修		
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 保育園での実務経験を活かし、生活や遊びなど経験談、実践例を交えながら授業を行う。					
[授業の目的・ねらい] 乳幼児期の言葉の発達について理解する。生活や遊びの中で、どのような関わりをしたら言葉豊かに育つかを考え、実践できる力を養う。					
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期の言葉の発達過程について学び、保育者としてふさわしい支援の方法を知る。 乳幼児期の言葉の発達を促す児童文化財を知る。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 乳幼児期の言葉の発達過程を理解し、保育者として適切な援助ができるようになる。 乳幼児期の言葉の発達を促す児童文化財に触れ、実践できるようにする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 領域「言葉」とは何かについて考察する。(講義・ディスカッション) 2. 領域「言葉」について理解を深める。(講義、ディスカッション) 3. 言葉の発達過程について学ぶ。(講義、ディスカッション) 4. コミュニケーションを育む様々な言葉遊びについて学ぶ。(講義、ディスカッション) 5. 「言葉」を育む保育者の関わりについて考察する。(講義、ディスカッション) 6. 生活と遊びの中で育つ言葉について考察する。(講義・ディスカッション) 7. 話すこと、聞くこと、伝えあうこと「こども会議」について考察する。(講義・ディスカッション) 8. 絵本について学ぶ①(講義、ディスカッション) 9. 絵本について学ぶ②好きな絵本を見つけ、調べる。(講義、個人ワーク) 10. 絵本について学ぶ③(発表・ディスカッション) 11. 保育の中で文字に親しむ経験について考察する。(講義・ディスカッション) 12. 特別な配慮を必要とする子どもへの支援について学ぶ。(講義・ディスカッション) 13. 言葉における今日的課題①早期教育について(講義・ディスカッション) 14. 言葉における今日的課題②子どもとメディアについて(講義・ディスカッション) 15. まとめと解説					
[履修に当たっての留意点] 絵本をたくさん紹介していきたいと思っています。現場に出るにあたって絵本の引き出しを増やしていきましょう。					
[使用テキスト・参考文献] 保育内容「言葉」指導法 馬見塚昭久/小倉直子 編著 保育所保育指針・幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] 定期試験50% 授業態度30% 提出物20%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 表現		授業の種類 演習		授業担当者 清水 和美
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 1年 後期		必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 教育現場、こどもの現場での実務経験を活かし、現場での実践事例などをもとに実践的な演習を行う。				
<p>[授業の目的・ねらい] 領域「表現」の目標及び狙いを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの表現を読み取り、感性や創造性を豊かにするための援助・指導のあり方や、保育者自身の表現の重要性について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 子どもの表現を広く読み取り、その表現におけるものの環境(教材など)を理解し、表現の具体的な援助指導方法を理解し、実践できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 領域「表現」について(講義・ディスカッション) 2. 表現と保育をめぐる事柄についての理解を深める(講義・ディスカッション) 3. 身体表現～ボディーパーカッション(講義・演習) 4. リズムを使った表現①楽器の奏法いろいろ(講義・演習) 5. リズムを使った表現②ドラムサークル(講義・演習) 6. 声を使った表現①歌唱による表現(講義・演習) 7. 声を使った表現②話す力と非言語による表現(講義・演習) 8. メロディー楽器を使った表現(講義・演習) 9. 即興演奏(講義・演習) 10. 造形表現①造形での遊び方と技法(講義・演習) 11. 造形表現②(講義・演習) 12. 劇遊びについて(講義・演習) 13. 子どもの感性と表現を育む保育者の役割(講義・ディスカッション) 14. 表現の目指すもの～保育者として心がけたいこと(講義・ディスカッション) 15. 授業のまとめ、解説 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気を持って、まず、自分の想いや感じたことを素直に表現していきましょう。 ・自分が子どもだったら、保育者にどのように援助してもらえたら、楽しいのか、嬉しいのかを、常に意識しながら授業に臨んでみて下さい。 				
<p>[使用テキスト・参考文献] 『表現指導法』上野奈初美著 保育所保育指針・幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験50% 授業態度30% 提出物20%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 音楽 I		授業の種類 演 習		授業担当者 吉野成子 長谷川三保子 高田葉月
授業の回数 6 0	時間数(単位数) 1 2 0 (4)	配当学年・時期 福祉保育学科 1年 前期	必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、小・中・高校やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する				
[授業の目的・ねらい] 幼児教育の現場で必要とされる「音楽に関する活動」を進めていくための、基本的な知識や楽器（ピアノ）の演奏技術を学び、弾き歌いの基礎を習得する。特に初心者は、課題を確実に学習するために日常の自習が必須である。既習者は各人の進度に応じて課題を進める。				
[授業全体の内容の概要] 1. ピアノ奏法の基礎を個人レッスンで学び、発展させる 2. 読譜力の習得と実践 3. 基礎的な音楽理論の習得				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. ピアノ奏法の基礎を理解する。初心者は教則本No. 55までを終了させる。 2. 読譜力を養い、自力で弾くことに慣れる 3. 音楽理論の基本を習得する				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション(授業内容・教材説明・担当グループ分け・実技レッスン・アンケート) 学園歌指導 2 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論(初級) 3・4 // 5・6 // 7・8 // 9・10 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論(初級)確認テスト 11・12 // 音楽理論(中級) 13・14 // 15・16 ピアノ実技前期中間進度見直し 17・18 // 19・20 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論(中級) 21・22 // 23・24 // 25・26 // 27・28 前期実技・筆記まとめ 29・30 前期終了まとめ (ソルフェージュは必要に応じて実施予定)				
[履修に当たっての留意点] 演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。				
[使用テキスト・参考文献] 歌唱教材伴奏法(教育芸術社) ジュニアクラスの楽典問題集(ドレミ出版) プリント適宜配布			[単位認定の方法及び基準] ピアノ実技試験 音楽理論筆記試験	

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 音楽Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 吉野成子 長谷川三保子 高田葉月
授業の回数 60	時間数(単位数) 120(4)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 後期	必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、小・中・高校やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する</p>				
<p>[授業の目的・ねらい] 前期で学んだ音楽の知識や技術を発展させる。応用として、移調伴奏や両手伴奏を習得して技術的、音楽的にも幅を広げ次年度へつなげることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 1. ピアノ奏法の習得に関して、学生個々の習熟度に応じた指導を行う 2. 読譜力の習得を進める 3. 音楽理論の知識を習得するため、課題を進める 4. 保育園実習で活用できる基本技術の習得 5. 和音記号、コードネームを学習してそれを使った伴奏付けに発展させる</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] ピアノ奏法の自学自習を習慣づけるようにして、基礎力を身につけるとともに、応用力に発展させることを目途とする。初心者はNo. 81までを終了とする。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1・2 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論(上級) 3・4 // 5・6 // 7・8 // 9・10 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論(上級)確認テスト 11・12 ピアノ実技・伴奏付け実技(保育実習事前指導)個人レッスン 13・14 // 15・16 // 17・18 // 19・20 // 21・22 // 23・24 // 25・26 後期実技・筆記まとめ 27・28 保育実習事前指導 29・30 2年次への課題指導</p>				
<p>[履修に当たっての留意点] 演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。</p>				
[使用テキスト・参考文献] 前期に同じ		[単位認定の方法及び基準] 前期に同じ		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 音楽Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 吉野成子 長谷川 三保子 高田 葉月	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年前期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、小・中・高校やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 1年次で学んだピアノの基礎技術を基に、保育の場で扱う教材を学習し、「うたう」ことを加えた技術の習得と表現方法を学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要] テキストより課題曲を決め「弾きながらうたう」ことができるようになるための個人指導を行う。課題曲が終了した者は、応用曲へ進む。使いやすい伴奏を自ら考え、弾けるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ピアノ伴奏をしながら豊かな声で、曲を理解して、子供たちをリードしてうたえるようにする。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要説明・個人レッスン(春期休暇課題) 2. 伴奏付け実技指導・歌唱指導・個人レッスン 3. 個人レッスン 4. // 5. // 6. // 7. // 8. // 9. // ・進捗の見直し 10. // 11. // 12. // 13. 前期実技まとめ 14. 前期実技まとめ・実習事前実技指導 15. 実習事前実技指導 <p style="text-align: center;">※ 必要に応じて、実習先からの課題指導 他授業との関連を考慮</p>					
<p>[履修に当たっての留意点] 演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 保育名歌ピアノ曲集（DOREMI） プリント適時配布</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 実技試験・授業態度</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 音楽Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 吉野成子 長谷川三保子 高田葉月	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 担当教員は、小・中・高校やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 前期で学んだ技術の発展、実用への応用をめざす</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「課題曲」に取り組み、終了した者は、応用曲にすすむ 実習曲の提示に則した指導も行う</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 「弾きうたい」できる楽曲を増やす よく通る、豊かな声での歌唱をめざす</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前実技個人指導 2. " 3. " 4. " 5. 後期課題曲歌唱指導・個人レッスン 6. 個人レッスン 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. " 13. " 14. 後期実技まとめ 15. 学年まとめ(発表) <p style="text-align: center;">※必要に応じて、実習曲の指導 他授業との関連を考慮 歌唱指導適時</p>					
<p>[履修に当たっての留意点] 演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 前期と同じ プリント適時配布			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 前期と同じ		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 図画工作 I		授業の種類 演習		授業担当者 白石 啓子	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年・前期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>担当教員は、幼稚園、保育園、認定こども園にて幼稚園教諭、保育士、保育教諭として、造形活動の指導経験を有している。さまざまな素材や用具を活用した造形活動への興味・関心を高め、その知識と技術の習得を目指し授業を展開する。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実技演習を通して、平面及び立体表現を学び、柔軟な思考や幅広い表現力を養う。また、保育の環境構成や教材・用具の活用等、子どもの造形活動の実践に必要な専門的知識や技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>造形活動は子どもの成長・発達に欠かせない重要な活動である。いろいろな素材や用具を活用して実践する造形活動は、子どもの表現体験をより豊かに、より創造的にする。それぞれの材料や用具の特性や効果を理解し、子どもに適した造形活動の実践における工夫や配慮について知る。また、実技演習を通して、平面及び立体表現の基礎を学び、色や形、材質、イメージ等、造形に対する興味や関心を高め、演習での体験を通して実践力を培う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>① 子どもの造形活動を豊かに展開するために必要な専門的知識や技術を身につける。 ② 造形活動に係る教材等の活用と保育の環境構成及び具体的な展開のための知識と技術を習得する。 ③ それぞれの材料や用具のもっている特性や性質を理解し、造形活動における実践力を高めていく。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1.オリエンテーション ・授業概要説明、子どもの造形活動と発達について。【講義→演習】</p> <p>2.平面表現① ・平面表現で使われる素材や用具の活用方法を知り、体験する。【講義→演習】</p> <p>3.平面表現② ・さまざまな平面表現技法を体験する。【演習】</p> <p>4.立体表現① ・立体表現で使われる素材や用具の活用方法を知り、体験する。【講義→演習】</p> <p>5.立体表現② ・簡単な造形活動を体験する。【演習】</p> <p>6.表現の原理 ・造形の基礎となる表現の原理である色彩の基礎を学ぶ【演習】</p> <p>7.協働しての表現(平面表現①)・平面表現における協働での作品製作の在り方を学び体験する。【グループ演習】</p> <p>8. " (平面表現②)・造形における協働での平面的な作品製作を体験する。【グループ演習】</p> <p>9. 協働しての表現(立体表現①)・立体表現における協働での作品製作の在り方を学び体験する。【グループ演習】</p> <p>10. " (立体表現②)・造形における協働での立体的な作品製作を体験する。【グループ演習】</p> <p>11.造形活動の展開方法① ・子どもの年齢や発達段階における造形活動の指導計画の作成方法を学ぶ。【講義→演習】</p> <p>12.造形活動の展開方法② ・計画と試作から実践時の工夫や配慮すべき点を探る【演習】</p> <p>13.衣装作り① ・イメージにあった衣装作りを体験する。【グループ演習】</p> <p>14.衣装作り② ・イメージにあった衣装作りを体験する。【グループ演習】</p> <p>15.衣装発表・まとめ ・ファッションショー(発表)を体験する。造形活動について振り返り、まとめをする。【演習】</p>					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>① ハサミやのり等、造形活動に必要な用具を常備すること。 ② ハサミやカッター等を使用する際には特に扱い方に留意すること。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『生活事例からはじめる造形表現』 吉田収、宮川萬寿美、野津直樹 青踏社</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度(意欲・態度など) 30% 製作姿勢 30% 作品の提出・発表 40%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 幼児体育		授業の種類 演習		授業担当者 星野 邦彦
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 2年 後期		必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 体育授業指導の実務経験をもとに、各運動遊びの環境校正や導入方法、実践、指導、補助などの方法が習得できるよう授業を展開していく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい] 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、及び身体表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。表現活動に係る教材等の活用と、保育の環境校正や具体的展開の技術を習得することを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの生活の中心は「あそび」である。子どもたちは多様なあそびの中で心身の発達・発育が促進され、運動技術も身につけていく。保育所・幼稚園実習および実際の現場で実践できるように、子どもの運動あそびの基礎的・理論的根拠を把握し、実践に必要な方法・技術を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊びを考え指導できるようになる。 ・指導法や補助など、さまざまな運動遊びに必要な知識と技術を習得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 運動あそびの必要性と目的について説明する。 2. 幼児期の心身の発達について説明する。 3. 運動あそびの指導の実際について説明する。 4. 「歩く・跳ぶ」の運動あそびを体験する。 5. 「走る」の運動あそびを体験する。 6. 「小さいボール」を使用した運動あそびを体験する。 7. 「大きいボール」を使用した運動あそびを体験する。 8. 「縄」を使用した運動あそびを体験する。 9. 「ドッジビー」を使用した運動あそびを体験する。 10. 「フープ・積み木」を使用した運動あそびを体験する。 11. 「巧技台・マット」を使用した運動あそびを体験する。 12. 「身近なもの」を使用した運動あそびを体験する。 13. 「なわとび」を使用した運動あそびを体験する。 14. グループでリズムなわとびを作成する。 15. リズムなわとびグループ発表をする。 まとめ 				
<p>[履修に当たっての留意点] 日々の体調管理をしっかりと行う。 運動に適した服装で授業に参加する。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献] 必要に応じて資料を配布する。 参考文献 体育あそび120 岩崎洋子 著 チャイルド本社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度(意欲・態度・協調性・発表など)70% 出席状況30%により総合評価をおこなう。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 乳児保育 I		授業の種類 講義		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園教諭としての現場経験と子育て経験を活かし、乳児の発達段階に応じた関わり方や乳児の生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。					
[授業の目的・ねらい] 乳児保育に関する全般的な知識と保育の内容5領域の専門知識と技能を理解し実践につながる学びをする。					
[授業全体の内容の概要] 3歳未満児の発育・発達の理解と、保育の場における現状と課題について理解し保育現場で必要な事柄について習得する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の基本的な意義を理解し、生活や遊びの実際と援助の方法を知り実践できる。 ・3歳未満児への具体的な配慮と運営体制の理解を深め、実践に向けての理解ができる。 ・多様化する(多国籍家庭や貧困家庭など)現状を理解し環境構成等ができるようになる。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ol style="list-style-type: none"> 1.乳児保育の基本的な考えを説明する。(子どもの主体性、個々の援助、体験と学びなど)【講義】 2.多様な保育について説明をする。(障害のある子、外国籍の子、家庭事情など)【講義】 3.自分の乳幼児期について振り返り乳幼児期の特徴について解説する。(自分の母子手帳を持参する)【講義】 4.乳幼児における生活・遊びの実際と援助について解説する。(1日の流れについて)【講義】 5.乳幼児における生活の実際と援助について説明し実践する。(おむつ替えと着替えをする)【実技】 6.乳幼児における生活の実際と援助について説明し実践する。(ミルクづくり、離乳食を食べてみる)【実技】 7.乳幼児における生活の実際と援助について説明し実践する。(抱っこをする、抱っこひもを使う)【実技】 8.発育・発達を踏まえた生活・遊びについて解説する。(健康、人間関係、環境、言葉について)【講義】 9.発育・発達を踏まえた生活・遊びについて解説する。(表現、音楽、造形、保育者と子ども同士)【講義】 10.手作りおもちゃを作るための構想を考え、製作をする説明をする。(手作りおもちゃを作る。)【実技】 11.手作りおもちゃを作る皆の前で発表をする。(自由製作、発表、まとめ)【実技】 12.乳幼児における心身の健康と安全管理について説明する。【講義】 13.乳幼児における配慮と実際について説明する(集団生活、環境変化等への配慮)【講義】 14.乳児保育における計画と実際について解説する(長期、短期計画と個別、集団的計画)【講義】 15.まとめ 					
[履修に当たっての留意点] 積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。					
[使用テキスト・参考文献] 乳児保育Ⅱアクティブラーニング対応 1日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践			[単位認定の方法及び基準] 受講態度、出欠席遅刻、提出物 20% 定期試験 80%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 乳児保育Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・前期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園教諭として勤務する中で、子育て支援活動として未就園児とその保護者を対象に活動をしてきたことを踏まえて講義をする。また、子育て経験から未満児保育の子どもの様子やその保護者との関わりについて実践を交え授業を進めていく。					
[授業の目的・ねらい] 前年度の基礎編を踏まえ、実践編として実際の0, 1, 2歳児の生活の様子を通してそのときどきの関わり方保護者への対応の仕方について具体的に考える。					
[授業全体の内容の概要] 課題に対しての、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、振り返りなどの方法を用いたアクティブラーニングを行い、子どもや保護者一人ひとりに対しての対応の仕方を学ぶ。					
[授業終了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの個性と発達の様子をとらえる観察力や臨機応変な思考力など実践的な応用力を養い関わるができるようになる。 ・3歳未満児とその保護者との関わり方や「より良い対応」についてワークを通じて実践することができる。 ・多様化する(多国籍家庭や貧困家庭など)保育の現場の状況の中で実際の関わり方を習得し実践しようとする事ができる。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ol style="list-style-type: none"> 1.実践編の登場人物について理解を深める。(ワークシートをまとめる。)【講義】 2.朝の受け入れ活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 3.朝の受け入れ活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをまとめる。)【講義】 4.食事活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 5.食事活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 6.睡眠活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 7.睡眠活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 8.排泄活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 9.排泄活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 10.着脱・清潔活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 11.着脱・清潔活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 12.遊び活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 13.遊び活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 14.午後のお迎え・お帰り活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークとロールプレイワークをまとめる。)【講義】 15.まとめ 					
[履修に当たっての留意点] 保育者になった気持ちで、子どもや保護者の対応の事例を考える。他者の意見にも耳を傾ける。積極的な発言をしていく。					
[使用テキスト・参考文献] 乳児保育Ⅱ—アクティブラーニング対応— 1日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践			[単位認定の方法及び基準] 定期試験(80%)授業態度、出欠席(20%)		

授業概要

授業のタイトル（教科名） 子どもの健康と安全		授業の種類 演習	授業の担当者 李 英姿
授業の回数 15	時間数（単位数） 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①子ども各期における発育や発達に応じた保育の知識・技術を身につける。②子どもの病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。③保育における安全な環境を提供することができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの発育の観察と評価、日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における健康観察および養護技術を把握する。 2. 乳幼児に起こりやすい症状とケアを習得する。 3. 保育における安全管理及び応急手当を習得する。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習：日常の保育における健康観察について解説する 2. 演習：発育の観察について解説する 3. 授業：生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価について解説する 4. 授業：子どもの健康増進と保健環境について説明する 5. 演習：健康的な生活習慣形成のための支援技術（1）食事、排泄について解説する 6. 演習：健康的な生活習慣形成のための支援技術（2）衣服着脱、清潔について解説する 7. 授業：子どもの病気の特徴、起こりやすい症状とケアについて解説する 8. 授業：子どもの疾病と適切な対応について解説する 9. 授業：事故防止および健康安全管理について解説する 10. 演習：保育の場における救急蘇生法について解説する 11. 演習：子どもにおける一次救命処置について解説する 12. 授業：起こりやすい事故と応急手当について解説する 13. 授業：予防すべき感染症について解説する 14. グループ討論：まとめ学習をする 15. 授業：復習と解説を行う 			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。</p>			
[使用テキスト・参考文献] 子どもの保健Ⅱ（株）みらい 参考資料は随時提示		[単位認定の方法及び基準] 期末試験 80% ノート 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害児保育	授業の種類 演 習	授業担当者 三澤 章子	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 養護学校(知的肢体)に教員として勤務。その後障害児のダンスと音楽を学ぶ。その経験をもとに保育園や障害施設で絵本の読み聞かせ及び「わらべうた遊び」を実施。発達障害児への可能性を探っている。平成19年より障害児(者)のダンスグループでダンスの指導をおこなっている。			
[授業の目的・ねらい] 1 障害のある子どもたちの特性を正しく理解し、援助の具体的な方法を学ぶ。 2 障害のある子どもたちを取り巻く環境・保護者への理解と支援や関係諸機関などとの連携について理解する。 3 障害のある子どもたちの遊びをダンス・わらべうたから学び実践に生かす。 [授業全体の内容の概要] 『光とともに』のドラマ及び「15歳のコーヒー屋さん」の本をもとに対応の難しい発達障害児への理解と支援の方法、障害児を取り巻く環境、保護者への理解と支援や関係諸機関との連携などについて学ぶ。「気になる子のためのわらべうた」から子どもの問題に合ったわらべうたを実技から学ぶ。さまざまな障害の特性を知り、それに合った身体遊び・ダンスを学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 1 障害について理解し障害に応じた支援ができるようになる。 2 障害児を取り巻く環境・保護者、関係諸機関などとの連携について理解できるようになる。 3 障害児の心身をはぐくむ遊びとしてのダンス・わらべうたなどが実践できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション「障害児保育」について説明する。 2. 指導者自身の身体感覚を磨く。実技 3. 「子どものための簡単なダンスを作ろう」簡単なダンスの作り方を説明する。実技。 4. グループで簡単な動きをつなげてみる。実技。 5. グループで簡単なダンスを作る。実技。 6. グループ発表とまとめ 7. 『光とともに』視聴及びディスカッション 8. 「①発達障害を理解する」「発達障害児を取り巻く環境を知る。」講義。 9. 『光とともに』視聴及びディスカッション 10. 「②発達障害を理解する」「保護者への理解とサポート」講義。 11. 『光とともに』視聴及びディスカッション 12. 「発達障害児を取り巻く子どもや他の保護者などへの対応を考え学ぶ。」講義。 13. 「心を満たすわらべうた・コミュニケーションが苦手な子」講義と実技 14. 「心を満たすわらべうた・協調性に欠ける子」講義と実技 15. 「心を満たすわらべうた・まねるのが苦手な子」講義と実技			
[履修に当たっての留意点] わらべうたやダンスの実技は恥ずかしがらず参加して身につけ、ボランティアなどいろいろな場面で実践してほしい。			
[使用テキスト・参考文献] 『気になる子』のわらべうた」クレヨンハウス		[単位認定の方法及び基準] 講義のまとめりごとの実技や課題の提出 80% 「講義内容」のノートの提出・授業態度 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害児保育		授業の種類 演 習		授業担当者 三澤 章子	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 後期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）は、前期と同じ。					
[授業の目的・ねらい]「授業全体の内容の概要」「到達目標」は、前期と同じ。					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「視覚障害について」講義・実技 2. 「視覚障害のこどものためのダンス」を作る。 実技 3. 「視覚障害のこどものためのダンス」発表・まとめ 4. 「聴覚障害について」講義・実技 5. 「聴覚障害のこどものためのダンス」を作る。 実技 6. 「聴覚障害のこどものためのダンス」発表・まとめ 7. 「肢体不自由について」講義・実技 8. 「肢体不自由のこどものためのダンス」を作る。 実技 9. 「肢体不自由のこどものためのダンス」発表・まとめ 10. 「からだを育てるわらべうた・動きまわる子」講義・実技 11. 「からだを育てるわらべうた・コントロールができない子」講義・実技 12. 「からだを育てるわらべうた・アンバランスな子」講義・実技 13. 「15歳のコーヒー屋さん」響君から学ぶ発達障害 幼児期 講義 14. 「15歳のコーヒー屋さん」響君から学ぶ発達障害 学校生活 講義 15. 「15歳のコーヒー屋さん」響君から学ぶ発達障害 仕事 講義・まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>わらべうたやダンスの実技は恥ずかしがらず参加して身につけ、ボランティアなどいろいろな場面で実践してほしい。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 『気になる子』へのわらべうた」クレヨンハウス			[単位認定の方法及び基準] 講義のまとめりごとの課題の提出と実技 80% 「講義・内容」のノートの提出 授業態度 20%		

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 社会的養護Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 大山 知恵子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（1）	配当学年・時期 福祉保育学科2年 前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 特別支援教育に携わってきた。児童・生徒の中には施設から通学している子や、家庭から通学していたが途中から施設入所となる子もいた。そういった子どもたちに関わってきた経験を活かして社会的養護の意義や現状について伝えていく。			
<p>〔授業の目的・ねらい〕 保育を取り巻く社会環境は大きく変わり、都市化は地域生活の有り様に影響を与え、女性就労の増大、核家族化や少子化は家庭生活の根本から問い直しが求められる。豊かな人間性を持った子どもを育てることが保育の特性である。総体的に社会的養護の内容を理解し、考察していく。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 施設における子どもの養護は、福祉・教育・心理の統合が重要であり、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 社会的養護の意義を総体的に理解し、人間性を育て、実践に役立たせる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目オリエンテーション 社会的養護における子どもの理解と支援の基本について概説する【講義】 2. 「子どもの最善の利益」の、様々なケースについて解説する【講義・視聴】 3. 児童自立支援計画の作成と記録及び自己評価の意義について解説する【講義】 4. 社会的養護における保育士等の専門性と社会的養護の体系について解説する【講義】 5. 児童福祉施設の概要（児童養護施設・児童自立支援施設等）【グループ調査・発表】 6. 児童福祉施設の概要（児童自立支援施設・乳児院等）【グループ調査・発表】 7. 里親制度の特徴とその実際について解説する【講義・視聴】 8. 保育士の業務について解説する【講義・一覧表作成】 9. 虐待された子どもへの支援について解説する【講義・ディスカッション】 10. 子どもと家族への支援・家庭支援について解説する【講義・ディスカッション】 11. 相談援助の技術の活用について解説する【講義・RP】 12. 基本的日常生活支援について解説する【講義・ディスカッション】 13. .退所に向けた支援の基本について解説する【講義】 14. 地域連携と家庭支援・地域住民と施設の関係について解説する【講義・ディスカッション】 15. 社会的養護の課題と将来像について解説する【講義・発表】 			
<p>〔履修に当たっての留意点〕 提示された課題は、次の授業までに調べる。疑問に思ったことは調べたり質問をしたりして、しっかりと理解する。</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕 『児童の福祉を支える 演習社会的養護Ⅱ』 萌文書林 編著者 吉田真理 著者 高橋一弘 村田紋子		〔単位認定の方法および基準〕 試験50%・提出物50%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子育て支援		授業の種類 演 習		授業担当者 橋本 祐																															
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 必 修																																
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。																																			
[授業の目的・ねらい] 子育て家庭への支援に関して理解を深め、支援の方法など総合的な力を養う。																																			
[授業全体の内容の概要] 保育士の行う子育て支援について、さまざまな場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。																																			
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ①さまざまな支援の内容と必要性、あり方について理解する。 ②保育の専門性を活かした子育て支援の方法を習得する。																																			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 35%;">1.オリエンテーション</td> <td>・授業概要説明、子育て支援とはについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>2.子育て支援の意義</td> <td>・子育て支援において保育園などが果たす役割などを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>3.子育て支援の基本的価値</td> <td>・子どもの成長への気づき、保護者の状況に配慮した支援を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>4.子育て支援の基本的姿勢</td> <td>・家庭や地域との連携、保護者との相互理解を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>5.子育て支援の基本的技術</td> <td>・子育て支援に役立つコミュニケーション技法を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>6.園内、園外との連携と社会資源</td> <td>・職員間の連携、さまざまな子育て支援者との連携を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>7.記録、評価、研修</td> <td>・さまざまな記録方法、評価、研修を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>8.日常会話を活用した子育て支援</td> <td>・送迎時、トラブルなどのやりとりを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>9.文章を活用した子育て支援</td> <td>・連絡帳、おたよりなどの活用方法を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>10.行事などを活用した子育て支援</td> <td>・保育参観、懇談会、行事などを活用した子育て支援を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>11.環境を活用した子育て支援</td> <td>・環境をとおした子育て支援の方法などを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>12.地域子育て支援拠点における支援</td> <td>・保育園などで多い地域子育て支援サービスなどを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>13.入所施設における子育て支援</td> <td>・入所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>14.通所施設における子育て支援</td> <td>・通所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>15.まとめ</td> <td>・子育て支援についての振り返りと今後の課題について。【演習】</td> </tr> </table>						1.オリエンテーション	・授業概要説明、子育て支援とはについて学ぶ。【演習】	2.子育て支援の意義	・子育て支援において保育園などが果たす役割などを学ぶ。【演習】	3.子育て支援の基本的価値	・子どもの成長への気づき、保護者の状況に配慮した支援を学ぶ。【演習】	4.子育て支援の基本的姿勢	・家庭や地域との連携、保護者との相互理解を学ぶ。【演習】	5.子育て支援の基本的技術	・子育て支援に役立つコミュニケーション技法を学ぶ。【演習】	6.園内、園外との連携と社会資源	・職員間の連携、さまざまな子育て支援者との連携を学ぶ。【演習】	7.記録、評価、研修	・さまざまな記録方法、評価、研修を学ぶ。【演習】	8.日常会話を活用した子育て支援	・送迎時、トラブルなどのやりとりを学ぶ。【演習】	9.文章を活用した子育て支援	・連絡帳、おたよりなどの活用方法を学ぶ。【演習】	10.行事などを活用した子育て支援	・保育参観、懇談会、行事などを活用した子育て支援を学ぶ。【演習】	11.環境を活用した子育て支援	・環境をとおした子育て支援の方法などを学ぶ。【演習】	12.地域子育て支援拠点における支援	・保育園などで多い地域子育て支援サービスなどを学ぶ。【演習】	13.入所施設における子育て支援	・入所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】	14.通所施設における子育て支援	・通所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】	15.まとめ	・子育て支援についての振り返りと今後の課題について。【演習】
1.オリエンテーション	・授業概要説明、子育て支援とはについて学ぶ。【演習】																																		
2.子育て支援の意義	・子育て支援において保育園などが果たす役割などを学ぶ。【演習】																																		
3.子育て支援の基本的価値	・子どもの成長への気づき、保護者の状況に配慮した支援を学ぶ。【演習】																																		
4.子育て支援の基本的姿勢	・家庭や地域との連携、保護者との相互理解を学ぶ。【演習】																																		
5.子育て支援の基本的技術	・子育て支援に役立つコミュニケーション技法を学ぶ。【演習】																																		
6.園内、園外との連携と社会資源	・職員間の連携、さまざまな子育て支援者との連携を学ぶ。【演習】																																		
7.記録、評価、研修	・さまざまな記録方法、評価、研修を学ぶ。【演習】																																		
8.日常会話を活用した子育て支援	・送迎時、トラブルなどのやりとりを学ぶ。【演習】																																		
9.文章を活用した子育て支援	・連絡帳、おたよりなどの活用方法を学ぶ。【演習】																																		
10.行事などを活用した子育て支援	・保育参観、懇談会、行事などを活用した子育て支援を学ぶ。【演習】																																		
11.環境を活用した子育て支援	・環境をとおした子育て支援の方法などを学ぶ。【演習】																																		
12.地域子育て支援拠点における支援	・保育園などで多い地域子育て支援サービスなどを学ぶ。【演習】																																		
13.入所施設における子育て支援	・入所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】																																		
14.通所施設における子育て支援	・通所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】																																		
15.まとめ	・子育て支援についての振り返りと今後の課題について。【演習】																																		
[履修に当たっての留意点] 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら学習する。																																			
[使用テキスト・参考文献] 『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』二宮裕子 萌文書林 参考文献 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館			[単位認定の方法及び基準] 授業態度(意欲・態度・グループワーク・協調・発表など)40% 科目試験 60%																																

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術 I		授業の種類 演 習		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・前期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>幼稚園・認定こども園での勤務経験を活かし、現場で実践できる保育技術の習得を目指し、演習を通して学生の保育技術向上を図る。年度末の学習成果発表会にむけて、クラス全体で学んだことを活かし、その集大成としての発表へと導く。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者を目指す者として、保育士が活躍する保育・支援の現場について知り、実践的な演習体験を通じて保育者に必要とされる技術や実践力を養うことを目的とする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場で活かせる保育技術の習得と向上を目指し、日々の活動の流れをつかむ。 ・施設概要や利用者のニーズ等について知り、保育者の役割を理解する。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の際や保育者となった時に自信をもって実践できるよう、各分野の演習から様々な保育技術や支援方法を習得する。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育技術についての授業の進め方について【講義】 教室内の壁面構成(誕生表、週番、掃除分担表)【実技】 2. 折り紙20種づくり ①【実技】 3. 折り紙20種づくり ②【実技】 4. 2年生徒交流①【実技】 5. 2年生と交流②【実技】 6. 時計作り【実技】 7. 時計作り発表【実技】 8. 手遊びを覚えよう【実技】 9. 手遊びを覚えよう 発表【実技】 10. 前橋七夕まつり準備(ペープサートづくり)【実技】 11. 前橋七夕まつり準備(ペープサートづくり発表)【実技】 12. 学習成果発表会準備【グループワーク】 13. 実習用名札づくり【実技】 14. 実習用名札発表【実技】 15. まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。積極的に授業参加し技術を深める。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育福祉小六法2020年度版(みらい) ・パーフェクトガイド3冊・・・幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(解説書を含む) 			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度 20% 提出物 40%</p> <p>発表の結果 20% 試験 20%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術 I		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園・認定こども園での勤務経験を活かし、現場で実践できる保育技術の習得を目指し、演習を通して学生の保育技術向上を図る。年度末の学習成果発表会にむけて、クラス全体で学んだことを活かし、その集大成としての発表へと導く。				
[授業の目的・ねらい] ・保育者を目指す者として、保育の現場で活かせる技術の習得し、実践的な演習体験や講義を通じ 保育者に必要とされる力を養うことを目的とする。				
[授業全体の内容の概要] ・保育の現場で活かせる保育技術の習得と向上を目指し、活動の流れに反映できるようになる。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・実習に向けて、また保育者となった時に自信をもって実践できるよう、各分野の演習から自らの保育の引き出しを増やしていく。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. ミニ運動会運営委員会【グループワーク】 2. パネルシアター制作①【実技】 3. パネルシアター制作②【実技】 4. ミニ運動会予行練習【実技】 5. パネルシアター発表【実技】 6. 自立課題制作(施設関係)①【実技】 7. 構造化制作(施設関係)②【実技】 8. 学習成果発表会準備・練習①【実技】 9. 学習成果発表会準備・練習②【実技】 10. 学習成果発表会準備・練習③【実技】 11. 集団遊び【実技】 12. 実習で活かせる保育技術①【実技】 13. 実習で活かせる保育技術②【実技】 14. 実習で活かせる保育技術③【発表】 15. まとめ				
[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。積極的に授業参加し技術を深める。				
[使用テキスト・参考文献] ・保育福祉小六法2020年度版(みらい) ・パーフェクトガイド3冊・・・幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(解説書を含む)		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20% 提出物 40% 発表の結果 40%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 霜田 道代	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年 前期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 保育園での実務経験を活かし、生活や遊びなど経験談、実践例を交えながら授業を行う。					
<p>[授業の目的・ねらい] 保育現場で必要とされる保育技術を身に着け、実践力を高める。 保育技術、知識の向上を目指し、保育者としてのスキルアップを図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育の現場ですぐに実践できる保育技術を学び、遊びの引き出しを増やす。 子どもの興味関心や、発達を考慮した遊びを提案、展開できる技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 様々な保育技術を取り入れ、福祉保育学科としての集大成の作品を仕上げる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 保育現場の現状について考察する。(講義・ディスカッション) 2. 遊びの計画実践(グループワーク) 3. 戸外遊び/室内遊びの実践(演習) 4. 戸外遊び/室内遊びの実践(演習) 5. 新聞紙遊び(講義・演習) 6. 身近なものを使った遊び①(演習) 7. 子どものトラブルについて考察する。(講義・ディスカッション) 8. 七夕製作①(演習) 9. 七夕製作②(演習) 10. 子どもとメディアについて考察する。(講義・ディスカッション) 11. SDGsと保育について考察する。(講義・ディスカッション) 12. 身近なものを使った遊び②(講義・演習) 13. 子どもの主体性について考察する。(講義・ディスカッション) 14. 学習成果発表会に向けてテーマを決める。(ミーティング) 15. 学習成果発表会に向けてグループ活動(演習) 					
<p>[履修に当たっての留意点] 日常の中で保育の引き出しを増やす意識を持ち、授業に参加してほしい。</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 授業態度、意欲50% 提出物50%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 霜田 道代	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年 後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 保育園での実務経験を活かし、生活や遊びなど経験談、実践例を交えながら授業を行う。					
<p>[授業の目的・ねらい] 保育現場で必要とされる保育技術を身に付け、実践力を高める。 保育技術、知識の向上を目指し、保育者としてのスキルアップを図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育の現場ですぐに実践できる保育技術を学び、遊びの引き出しを増やす。 子どもの興味関心や、発達を考慮した遊びを提案、展開できる技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 様々な保育技術を取り入れ、福祉保育学科としての集大成の作品を仕上げる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習成果発表会に向けてグループ活動(演習) 2. 学習成果発表会に向けてグループ活動(演習) 3. 学習成果発表会に向けてグループ活動(演習) 4. 学習成果発表会に向けてグループ活動(演習) 5. 学習成果発表会に向けてグループ活動(演習) 6. 学習成果発表会に向けてグループ活動中間発表(発表) 7. 学習成果発表会に向けてグループ活動中間発表振り返り(ディスカッション) 8. 学習成果発表会に向けてクラス活動(演習) 9. 学習成果発表会に向けてクラス活動(演習) 10. 学習成果発表会に向けてクラス活動(演習) 11. 学習成果発表会に向けてクラス活動(演習) 12. 学習成果発表会に向けてクラス活動(演習) 13. 学習成果発表会に向けてクラス活動(演習) 14. 学習成果発表会に向けてクラス活動(演習) 15. 学習成果発表会に向けてクラス活動(演習) 					
<p>[履修に当たっての留意点] 日常の中で保育の引き出しを増やす意識を持ち、授業に参加してほしい。</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 授業態度、意欲50% 提出物50%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導 I		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期		必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園・認定こども園での勤務経験をもとに、幼稚園教育実習、保育所実習にむけた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。				
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・保育所・児童福祉施設等の社会福祉施設の役割や機能について理解する。 ・保育士の職務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 ・保育計画、観察、記録及び自己評価等保育実習に向けて必要な知識や技術を学ぶ。 				
[授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・保育の倫理と実践的な学習を積み重ねながら、円滑にまた充実した実習となるよう学びを深めていく。 				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I の意義や目的、内容や方法、心得を学び、地震の課題をもって実習に臨む。 ・保育の流れを理解し、保育の現場で役立つ保育技術について学び、習得する。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ol style="list-style-type: none"> 1.授業内容説明・実習までの流れ/保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設について(保育士の倫理)【講義】 2.保育実習 I (実習の心構え、守秘義務、実習園の決定まで【講義→ワーク】 3.実習先決定。(保育所、幼稚園、認定こども園)電話のかけ方について【講義→グループワーク】 4. 実習先へ連絡をする。【実践】 5.実習先調べ(保育所)【調べ学習】 6.施設実習について。【講義】 7.施設実習先の決定。【講義】 8.実習先調べ(幼稚園)【調べ学習】 9.実習先調べ(施設)【調べ学習】 10. 2年生の実習報告会の参加。 11.実習生に求められるもの、実習課題の立て方。 12.実習日誌の書き方①【講義】 13.実習日誌の書き方②【講義】 14.指導案の書き方や実践【講義→グループワーク】 15.まとめ 				
[履修に当たっての留意点] <ul style="list-style-type: none"> ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。授業は、積極的に参加する。 				
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・パーフェクトガイド(3冊)・保育福祉小六法2019年度版(みらい) ・保育所保育指針(解説書を含む)・幼稚園教育要領(解説書を含む) ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(解説書を含む) 			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20% 提出物 40% 試験の結果 40%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導 I	授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期	必修・選択 必 修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>幼稚園・認定こども園での勤務経験をもとに、幼稚園教育実習、保育所実習にむけた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I の意義・目的を理解し、自らの課題を明確にする。 ・保育の計画、観察を、記録および自己評価等保育実習に向けて必要な知識や技術を学び、実践の場で生かしていく。 ・実習施設における子ども(利用者)の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ・実習の事後指導を通じて、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の理論と実践的な学習を積み重ねながら、円滑にまた充実した実習となるよう学びを深めていく。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I の意義や目的、内容や方法、心得を学び、自身の課題を持って実習に臨めるようになる。 ・実習終了後には実習総括・評価から新たな自己の課題を明確にし、解決に向けて努力できるようになる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習①日誌、誓約書、個人票、同意書など【講義】 2. 渡瀬養護園施設見学(オンライン)【講義】 3. 介護技術演習(上田先生)【実技】 4. 施設実習②日誌、誓約書、個人票、同意書など【講義】 5. 施設実習に向けて③(実習施設概要等)【講義】 6. 施設実習に向けて④(計画立案等)【講義】 7. 保育実習に向けて①(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】 8. 保育実習に向けて②(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】 9. 保育実習に向けて③(実習先の概要について)【調べ学習】 10. 保育実習に向けて④(指導案の作成)【講義→ワーク作成】 11. 施設実習に向けて⑤(オリエンテーションの連絡について)【講義】 12. 施設実習に向けて⑥(オリエンテーションの連絡)【講義】 13. 保育実習に向けて⑤(指導案の作成)【実技】 14. 保育実習に向けて⑥(指導案の作成)【実技】 15. まとめ 			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。授業は、積極的に参加する。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>* 前期と同じ</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度 20% 提出物 40% 試験の結果 40%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 白石 啓子
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・前期	必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>幼稚園・保育園・こども園での勤務経験をもとに、保育実習Ⅱ（保育所）にむけ、指導案の立案から作成・実践へと責任実習を視野に入れた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての基本姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の既習科目から得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。 <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰ(保育所・施設)の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。 ・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、職員の動きを見て学び、実践に活かす。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習指導Ⅱ・Ⅲの授業概要について(保育実習ⅠとⅡ・Ⅲの目的や内容の比較)＜講義→ワーク＞ * 保育実習Ⅰ(保育所・施設)についての再確認(提出書類・日誌・実習事前オリエンテーション等) 2. 保育実習Ⅱ・Ⅲの選択について/園行事のある日の保育の流れ) ＜講義→ワーク＞ 3. 療育の現場から～「わたらせ療護園」＜施設長・先輩保育士との交流＞＜講話→ワーク＞ 4. 参加実習:園庭遊び(附属認定こども園にて・Aグループ)(B・Cグループはグループワーク) 5. 参加実習:園地遊び(附属認定こども園にて・Bグループ)(A・Cグループはグループワーク) 6. 参加実習:園庭遊び(附属認定こども園にて・Cグループ)(A・Bグループはグループワーク) 7. 保育実習Ⅰ(保育所)実習直前指導＜講義→ワーク＞ 8. 保育実習Ⅰ(保育所)実習事後指導①:お礼状作成・振り返りシート記入＜講義→ワーク＞ 9. 保育実習Ⅰ(保育所)実習事後指導②:振り返り＜発表→共有→まとめ＞ 10. 1・2年生の交流(実習に向けて):実習先での様子・園の1日の流れ＜講義→グループワーク→発表＞ 11. 保育実習Ⅰ(施設)実習事前指導①:実習事前オリエンテーション・2週間前指導＜講義→ワーク＞ 12. 保育実習Ⅰ(施設)実習事前指導②:記録の取りかた(日誌の記入・取りまとめ・提出)＜講義→ワーク＞ 13. 保育実習Ⅰ(施設)実習直前指導(チェック表・配布物・提出物等の最終確認)＜講義→ワーク＞ 14. 保育実習Ⅰ(施設)実習事後指導①:お礼状下書き提出・清書、振り返りシート作成＜講義→ワーク＞ 15. 保育実習Ⅰ(施設)実習事後指導②:振り返り＜発表→共有→まとめ＞ 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。 				
<p>[使用テキスト・参考文献]パーフェクトガイド3冊わかば社 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年) 保育福祉小六法2020</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度30%・課題への取り組み40%、提出物30%を目安とし、総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 霜田 道代	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・後期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園・保育園・こども園での勤務経験をもとに、幼稚園教育実習、保育所実習にむけた指導案の立案、作成など責任実習を視野に入れた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰをはじめ、既習科目全体の知識・技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・保育の理論と実践的な学習を積み重ねながら、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習Ⅱの目的を理解し、保育計画の学びを踏まえた指導案を計画し、保育の場で実践する。 ・自らが立てた指導案を実践する上では、想定できる保育の流れや展開について綿密に検討し、準備を整えて実習に向かい、子どもたちとの関わりから課題を見出す。 ・実習の振り返りから自己の新たな課題を明確にし、改善方法を見出しながら今後の実践につなげていく。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.指導案(日案)の立て方を理解する→日案(一日の流れ)作成①<講義→ワーク> 2.日案の作成②<講義→ワーク> 3.実習前オリエンテーションをふまえたワーク(確認シートの作成) <解説→ワークシートの記入> 4.保育実践報告 <発表→共有→まとめ> 5.保育実習Ⅱ日誌事前の記入<講義→個別ワーク> 6.教材研究・指導案(主活動)の作成① <講義→個別ワーク> 7.指導案の作成②<解説→個別ワーク→まとめ> 8.試作・プレ実践①<講義→個別ワーク> 9.試作・プレ実践②<解説→個別ワーク> 10.指導案の見直し<解説→個別ワーク> 11.指導案仕上げ→保育実習Ⅱ事前指導のまとめ<解説→個別ワーク→まとめ> 12.保育実習Ⅱ・Ⅲ直前指導(日誌最終確認・チェックシート・配布物)<解説→個別ワーク> 13.保育実習Ⅱ・Ⅲ振り返り①<発表→共有→まとめ> 14.実習事後指導(実習評価・振り返り→今後の課題の明確化)<個別面談> 15.学科まとめ試験 					
<p>[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]パーフェクトガイド3冊わかば社 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年) 保育福祉小六法2020</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度30%・課題への取り組み、提出物40%、 学科まとめ試験30%を目安とし、総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 橋本 祐	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・前期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の既習科目から得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。 <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰ(保育所・施設)の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。 ・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、職員の動きを見て学び、実践に活かす。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習指導Ⅱ・Ⅲの授業概要について(保育実習ⅠとⅡ・Ⅲの目的や内容の比較)＜講義→ワーク＞ *保育実習Ⅰ(保育所・施設)についての再確認(提出書類・日誌・実習事前オリエンテーション等) 2. 保育実習Ⅱ・Ⅲの選択について/園行事のある日の保育の流れ) ＜講義→ワーク＞ 3. 療育の現場から～「わたらせ療護園」＜施設長・先輩保育士との交流＞＜講話→ワーク＞ 4. 参加実習:園庭遊び(附属認定こども園にて・Aグループ)(B・Cグループはグループワーク) 5. 参加実習:園地遊び(附属認定こども園にて・Bグループ)(A・Cグループはグループワーク) 6. 参加実習:園庭遊び(附属認定こども園にて・Cグループ)(A・Bグループはグループワーク) 7. 保育実習Ⅰ(保育所)実習直前指導＜講義→ワーク＞ 8. 保育実習Ⅰ(保育所)実習事後指導①:お礼状作成・振り返りシート記入＜講義→ワーク＞ 9. 保育実習Ⅰ(保育所)実習事後指導②:振り返り＜発表→共有→まとめ＞ 10. 1・2年生の交流(実習に向けて):実習先での様子・園の1日の流れ＜講義→グループワーク→発表＞ 11. 保育実習Ⅰ(施設)実習事前指導①:実習事前オリエンテーション・2週間前指導＜講義→ワーク＞ 12. 保育実習Ⅰ(施設)実習事前指導②:記録の取りかた(日誌の記入・取りまとめ・提出)＜講義→ワーク＞ 13. 保育実習Ⅰ(施設)実習直前指導(チェック表・配布物・提出物等の最終確認)＜講義→ワーク＞ 14. 保育実習Ⅰ(施設)実習事後指導①:お礼状下書き提出・清書、振り返りシート作成＜講義→ワーク＞ 15. 保育実習Ⅰ(施設)実習事後指導②:振り返り＜発表→共有→まとめ＞ 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]パーフェクトガイド3冊わかば社 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年) 保育福祉小六法2020</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度30%・課題への取り組み40%、提出物30%を目安とし、総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 橋本 祐	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・後期	必修・選択 必修		
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。					
[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰをはじめ、既習科目全体の知識・技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 [授業全体の内容の概要] ・保育の理論と実践的な学習を積み重ねながら、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習Ⅱの目的を理解し、保育計画の学びを踏まえた指導案を計画し、保育の場で実践する。 ・自らが立てた指導案を実践する上では、想定できる保育の流れや展開について綿密に検討し、準備を整えて実習に向かい、子どもたちとの関わりから課題を見出す。 ・実習の振り返りから自己の新たな課題を明確にし、改善方法を見出しながら今後の実践につなげていく。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.指導案(日案)の立て方を理解する→日案(一日の流れ)作成①<講義→ワーク> 2.日案の作成②<講義→ワーク> 3.幼稚園教育実習直前指導(日誌最終確認・チェックシート・配布物)<解説→個別ワーク> 4.幼稚園教育実習事後指導:振り返り<発表→共有→まとめ> 5.保育実習Ⅲ日誌施設の概要を記入<講義→個別ワーク> 6.保育実習Ⅲ実習計画の立案 <講義→個別ワーク> 7.相談援助技法の演習<解説→少人数でのワーク> 8.個別支援計画についての理解<講義> 9.個別支援計画の作成と発表<解説→少人数でのワーク> 10.手順書に沿った支援の実践<解説→個別ワーク> 11.保育実習Ⅲ事前指導のまとめ<解説→個別ワーク→まとめ> 12.保育実習Ⅱ・Ⅲ直前指導(日誌最終確認・チェックシート・配布物)<解説→個別ワーク> 13.保育実習Ⅱ・Ⅲ振り返り①<発表→共有→まとめ> 14.実習事後指導(実習評価・振り返り→今後の課題の明確化)<個別面談> 15.学科まとめ試験					
[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。					
[使用テキスト・参考文献]パーフェクトガイド3冊わかば社 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年) 保育福祉小六法2020			[単位認定の方法及び基準] 授業態度30%・課題への取り組み、提出物40%、 学科まとめ試験30%を目安とし、総合的に評価する。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 白石 啓子
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・前期	必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>幼稚園・保育園・認定こども園での勤務経験を活かし、学生がこれまでに培ってきた保育の知識や技術を、保育の現場で役立つ実践力として応用していけるよう、演習を重ねていく。また、演習では、保育者として求められる姿勢を意識した視点を持って仲間と連携・協働できるよう導きながら、保育の学びを深め、実践力を高めていく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢の理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>・保育の様々な場面に即したテーマを選定し、実践に必要な情報収集や教材研究に取り組む中で、学生同士の同僚性を高めながらワークに取り組み、広がり・深まりのある保育の実践につなげていく。</p> <p>授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>・保育の専門職としての知識や技術を活かした企画および実践演習を通して、学生一人ひとりが「思考力」「判断力」「表現力」を発揮し、実践と協働による達成感を味わう。</p> <p>・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢への理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の説明 / 保育実践演習において修得したい保育力…「総合的保育力」とは<講義→ワーク> 2. 保育技術の向上のために…集団遊び(あぶくたつた・むつくりくまん・長縄など)の実践演習<解説→グループワーク> 3. 集団遊びの実践発表<発表→共有→解説> 4. 「個別的保育力」とは…①子どもの発達に応じた玩具 <講義→ワーク> 5. 実践 子どもの育ちを考慮した手作り玩具<ワーク→発表→共有→展示> 6. ②月齢ごとの保育:子ども理解…発達段階に即した指導(その子に寄り添う・褒める・叱る) 0.1.2歳児の保育/3.4.5歳児の保育<講義→ワーク> 7. 実践 基本的な生活習慣の自立を促す/遊びへの意欲・達成感を育む <ワーク→発表→共有→解説> 8. トラブル対応<子どもとのかかわり・利用者とかかわり>(ロールプレイ) <実践→解説> 9. 指導案(主活動・新聞紙じゃんけん)作成① <解説→ワーク(個別作成)> 10. 指導案の作成② <解説→ワーク(個別作成)> 11. 指導案の作成③ 仕上げ→実践準備<解説→ワーク(個別・グループ)→解説→実践準備> 12. 指導案リレー実践発表(園の一日)ロールプレイ<実践→解説> 13. 「個別的保育力」とは…⑤個性への支援 「特別な配慮を要する子ども」への対応(同僚、保護者、他機関との連携)発達障害の理解 <解説→ワーク> 14. 視覚的支援方法(困り感への対応)<ワーク→発表→共有→掲示> 15. 保育フリートーク(保育の現場から学んだこと→これからの課題)<共有→解説> 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「保育する力」吉田眞理[監修]ミネルヴァ書房 パーフェクトガイド3冊わかば社 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>・授業態度及び課題への取り組み ・提出物 ・発表 などを総合的に評価</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実践演習		授業の種類 演習		授業担当者 霜田 道代	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・後期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 保育園勤務の経験を活かし、保育の現場で知っておくと役に立つ基礎知識やスキルを、実践を通して伝える。保育の実践を通して省察を繰り返し、クラスの仲間と意見しあいながら実践経験を積んでいけるよう指導する。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] ・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢の理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・保育の様々な場面に即したテーマを選定し、実践に必要な情報収集や教材研究に取り組む中で、学生同士の同僚性を高めながらワークに取り組み、広がり・深まりのある保育の実践につなげていく。</p> <p>授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育の専門職としての知識や技術を活かした企画および実践演習を通して、学生一人ひとりが「思考力」「判断力」「表現力」を発揮し、実践と協働による達成感を味わう。 ・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢への理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 授業内容の説明 / 児童文化財紙芝居について講義する<講義・ディスカッション> 2. 子どもの主体性について講義する<講義・ディスカッション> 3. 保育実習について講義する<DVD視聴・ディスカッション> 4. 子どもの「けんか」について講義する<講義・ディスカッション> 5. 保育とSDGsについて講義する<講義・ディスカッション> 6. 遊びの実践<実践> 7. 遊びの実践<実践・ディスカッション> 8. クリスマス会企画<解説・ワーク> 9. クリスマス会<実践> 10. 食育について講義する<講義・ディベート> 11. 子どもの事例を考察し、講義する<講義・DVD視聴・ディベート> 12. 身近な子どもの問題について講義する<講義・ディベート> 13. 記念カード製作について説明する<講義・ワーク> 14. 記念カード製作<ワーク> 15. まとめと解説<発表></p>					
<p>[履修に当たっての留意点] クラス内のディスカッションの機会を多くあるので、自分の意見を持ち、言えるようにしてほしい。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 授業に必要なプリントは随時用意します。 『保育する力』学校法人三幸学園こども未来会議 ミネルヴァ書房</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] ・授業態度及び課題への取り組み ・提出物 ・発表 などを総合的に評価</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害者スポーツ		授業の種類 演習		授業担当者 星野 邦彦	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 2年 後期		必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 日本障がい者スポーツ協会及び群馬県障がい者スポーツ競技会の指導者として、障がい者スポーツ大会の運営等に携わった経験をもとに、実技も含めながら授業を展開していく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 障がい者が豊かな社会生活を送るために、障がい者スポーツや文化・芸術活動の果たす役割も大きい。障がい者スポーツでは、重度障がい者の参加にも考慮しつつ、生活の中で楽しむことができるスポーツ、さらには競技としてのスポーツを積極的に推進すべきであり、障がい者スポーツ振興の理解と、その援助法を中心に習得することを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障がい者を取り巻く地域社会での福祉施策やスポーツ心理・レクリエーションの意義、障がい区分とスポーツ活動やスポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、障がい者スポーツの実施と障がい者のために工夫されたスポーツを学習する。「初級障がい者スポーツ指導員」資格を取得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 障がい者スポーツの意義、特性、支援・援助方法を理解できる。 障がい区分に応じた基本的な支援・援助方法を身につけることができる。 障がい者スポーツ指導員としての資質を身につけ、生活の中でスポーツに親しめるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質について説明する。 2. 障がい者スポーツの意義と理念について説明する。 3. コミュニケーションスキルの基礎について説明する。 4. 障がいのある人との交流について説明する。 5. 障がい者スポーツに関する諸施策について説明する。 6. 障がい者スポーツ推進の取り組み・安全管理について説明する。 7. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(シッティングバレー) 8. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(フライングディスク) 9. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(車いすスラローム) 10. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(ペタンク) 11. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(ゴールボール) 12. 各障がいの理解について説明する。 13. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫について説明する。 14. 全国障がい者スポーツ大会の概要について説明する。 15. まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] 日本障がい者スポーツ協会が認定する資格なので、すべての講義を受講することが必要である。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] (公財)日本障がい者スポーツ協会 [編] 「障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)」 ぎょうせい</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度50%、実技・筆記試験50%により総合評価をおこなう。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害者支援/手話		授業の種類 演習		授業担当者 山田浩臣・小畑祥子																																											
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1/2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年 後期		必修・選択 必修																																											
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 聴覚障がい者の暮らし、歴史、活動、福祉などを、当事者である聴覚障がいを持つ講師と、さまざまな場面で手話通訳経験を積んだ手話通訳士とがペアとなり、聴覚障がい者の理解を深める講義と手話実技の指導にあたります。</p>																																															
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手話を学ぶ事を通して、聴覚障がい者と関わりを深め、聴覚障がい者の生活・歴史・福祉など社会における聴覚障がい者の現状を学び、見た目では解りにくい「障がい」を理解し社会的要因について学びます。 2. コミュニケーション手段として、基本的な手話技術を学びます。また、手話を学ぶことでコミュニケーションの必要性や伝えることの大切さを学びます。 <p>[授業全体の内容の概要] 講義と手話実技</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 聴覚障がい者問題への理解、コミュニケーション手段として、手話技術を身につけます。</p>																																															
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1.</td> <td style="width: 35%;">講義 ガイダンス</td> <td style="width: 60%;">(手話の授業を受けるに当たっての心構えを知る)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技 伝え合ってみましょう</td> <td>(身振りで伝える、あいさつの手話を学ぶ、名前を表してみる)指文字あ〜な行</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>講義 聴覚障害者のコミュニケーション</td> <td>(聴覚障害について、コミュニケーション方法について)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技 家族を紹介しましょう</td> <td>(名前、家族などの手話を学ぶ)指文字は〜わ行</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>講義 聴覚障害者の暮らし</td> <td>(DVD視聴)「私の大切な家族」・聴覚障害者の生活</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技 数について学びましょう(時間・月日)</td> <td>(数字、何曜日、月日の手話を学ぶ)</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>講義 音のない世界</td> <td>(災害、聴こえないこと、困ったこと)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技 住所・趣味を紹介しましょう</td> <td>(趣味、出身、行きたい場所などの手話を学ぶ)</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>講義 手話の歴史</td> <td>(手話はどのように誕生したか?)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技 時、色、食べ物を表しましょう</td> <td>(午前、午後、色と食べ物の手話を学ぶ)好き・嫌い手話表現・表情</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>交流会 交流会「ろう者と手話で話してみよう」</td> <td>(今まで学んだ手話を活かしてろう者たちと交流)</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>講義 手話は言語</td> <td>(手話言語条例について・県民の役割は?)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実技 聞こえない保護者と会話をしましょう</td> <td>(保育園など、仕事の現場で使える手話単語を学ぶ)</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td colspan="2">振り返り</td> </tr> </table>						1.	講義 ガイダンス	(手話の授業を受けるに当たっての心構えを知る)		実技 伝え合ってみましょう	(身振りで伝える、あいさつの手話を学ぶ、名前を表してみる)指文字あ〜な行	2.	講義 聴覚障害者のコミュニケーション	(聴覚障害について、コミュニケーション方法について)		実技 家族を紹介しましょう	(名前、家族などの手話を学ぶ)指文字は〜わ行	3.	講義 聴覚障害者の暮らし	(DVD視聴)「私の大切な家族」・聴覚障害者の生活		実技 数について学びましょう(時間・月日)	(数字、何曜日、月日の手話を学ぶ)	4.	講義 音のない世界	(災害、聴こえないこと、困ったこと)		実技 住所・趣味を紹介しましょう	(趣味、出身、行きたい場所などの手話を学ぶ)	5.	講義 手話の歴史	(手話はどのように誕生したか?)		実技 時、色、食べ物を表しましょう	(午前、午後、色と食べ物の手話を学ぶ)好き・嫌い手話表現・表情	6.	交流会 交流会「ろう者と手話で話してみよう」	(今まで学んだ手話を活かしてろう者たちと交流)	7.	講義 手話は言語	(手話言語条例について・県民の役割は?)		実技 聞こえない保護者と会話をしましょう	(保育園など、仕事の現場で使える手話単語を学ぶ)	8.	振り返り	
1.	講義 ガイダンス	(手話の授業を受けるに当たっての心構えを知る)																																													
	実技 伝え合ってみましょう	(身振りで伝える、あいさつの手話を学ぶ、名前を表してみる)指文字あ〜な行																																													
2.	講義 聴覚障害者のコミュニケーション	(聴覚障害について、コミュニケーション方法について)																																													
	実技 家族を紹介しましょう	(名前、家族などの手話を学ぶ)指文字は〜わ行																																													
3.	講義 聴覚障害者の暮らし	(DVD視聴)「私の大切な家族」・聴覚障害者の生活																																													
	実技 数について学びましょう(時間・月日)	(数字、何曜日、月日の手話を学ぶ)																																													
4.	講義 音のない世界	(災害、聴こえないこと、困ったこと)																																													
	実技 住所・趣味を紹介しましょう	(趣味、出身、行きたい場所などの手話を学ぶ)																																													
5.	講義 手話の歴史	(手話はどのように誕生したか?)																																													
	実技 時、色、食べ物を表しましょう	(午前、午後、色と食べ物の手話を学ぶ)好き・嫌い手話表現・表情																																													
6.	交流会 交流会「ろう者と手話で話してみよう」	(今まで学んだ手話を活かしてろう者たちと交流)																																													
7.	講義 手話は言語	(手話言語条例について・県民の役割は?)																																													
	実技 聞こえない保護者と会話をしましょう	(保育園など、仕事の現場で使える手話単語を学ぶ)																																													
8.	振り返り																																														
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ろう講師は視覚から情報を得るため、受講生は手や顔が見やすいように服装(そでの長さ)、髪型に注意する。 ・実技は、ろう講師と視線を合わせて会話をする。 ・各自復習をする。 																																															
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>聴さんと学ぼう! : 一般社団法人全日本ろうあ連盟 手話を学ぼう 手話で話そう: 全国手話研修センター 私たちの手話 学習辞典 I : 一般社団法人全日本ろうあ連盟 聴覚・言語障害者とコミュニケーション: 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>手話での読み取り (50%) 手話での表現(スピーチ)1分間 (50%)</p>																																												

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害者支援/点字		授業の種類 演習		授業担当者 岡田 記代	
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1/2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年 後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 点字の概要・歴史を学び視覚障害者にとって点字の持つ役割を理解する。 2. 実際に点字の読み書きを行うことで点字技術を習得する。 3. 視覚障害者への理解を深め思いやりのある気持ちを育てる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>点字の歴史を含む点字技術を主に学ぶが単に技術習得にはとどまらず、実際に視覚障害者と出会った時にどうするか、どのような支援ができるかなど、広く視覚障害者の現況や福祉制度についても理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害者の現状をまなび、その福祉制度について理解する。 2. 点字の歴史と点字の発見が視覚障害者に果たした役割を学ぶことで、視覚障害者の歴史を理解できる。 3. 点字の読み書きに習熟する(簡単な文章の読み書きができる)。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害者の現況について・点字の歴史・点字の仕組みについて解説する。【講義】 2. 点字の清音、濁音、数字等の仕組みについて説明する。【講義・演習】 3. 点字の書き方について解説する。【講義・演習】 4. 点字の文法(仮名遣い・分かち書き)について説明する。【講義・演習】 5. 数字、アルファベットの書き方を説明する。【講義・演習】 6. 課題点訳 手紙の書き方を学び実際に点訳する。【講義・演習】 7. 視覚障害者への接し方について解説する。【講義とDVD視聴】 8. まとめと解説 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>授業中に与えられた課題で時間内に終わらなかったものは、次回までに仕上げて提出する。新しい学びのため覚えるのは大変だが、その都度きちんと復習することが記憶力・モチベーション等を高めることになる。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>G-10とマナブくんの点字教室 特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会編集・発行</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>毎回、課題を提出してもらいその都度採点する。 課題の点訳とまとめテスト行う。 提出物10% 課題点訳40% 定期試験50%</p>		